



Cisco Unity Connection リコンフィギュレーション アップグレードガイド

Release 7.x
Published August 25, 2008

Reconfiguration and Upgrade Guide for Cisco Unity Connection

Release 7.x
Published August 25, 2008

**【注意】シスコ製品をご使用になる前に、安全上の注意
(www.cisco.com/jp/go/safety_warning/)をご確認ください。**

**本書は、米国シスコシステムズ発行ドキュメントの参考和訳です。
米国サイト掲載ドキュメントとの差異が生じる場合があるため、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。
また、契約等の記述については、弊社販売パートナー、または、弊社担当者にご確認ください。**

このマニュアルに記載されている仕様および製品に関する情報は、予告なしに変更されることがあります。このマニュアルに記載されている表現、情報、および推奨事項は、すべて正確であると考えていますが、明示的であれ黙示的であれ、一切の保証の責任を負わないものとします。このマニュアルに記載されている製品の使用は、すべてユーザ側の責任になります。

対象製品のソフトウェア ライセンスおよび限定保証は、製品に添付された『Information Packet』に記載されています。添付されていない場合には、代理店にご連絡ください。

The Cisco implementation of TCP header compression is an adaptation of a program developed by the University of California, Berkeley (UCB) as part of UCB's public domain version of the UNIX operating system. All rights reserved. Copyright © 1981, Regents of the University of California.

ここに記載されている他のいかなる保証にもよらず、各社のすべてのマニュアルおよびソフトウェアは、障害も含めて「現状のまま」として提供されます。シスコシステムズおよびこれら各社は、商品性の保証、特定目的への準拠の保証、および権利を侵害しないことに関する保証、あるいは取引過程、使用、取引慣行によって発生する保証をはじめとする、明示されたまたは黙示された一切の保証の責任を負わないものとします。

いかなる場合においても、シスコシステムズおよびその供給者は、このマニュアルの使用または使用できないことによって発生する利益の損失やデータの損傷をはじめとする、間接的、派生的、偶発的、あるいは特殊な損害について、あらゆる可能性がシスコシステムズまたはその供給者に知らされていても、それらに対する責任を一切負わないものとします。

CCDE, CCENT, Cisco Eos, Cisco Lumin, Cisco Nexus, Cisco StadiumVision, Cisco TelePresence, the Cisco logo, DCE, and Welcome to the Human Network are trademarks; Changing the Way We Work, Live, Play, and Learn and Cisco Store are service marks; and Access Registrar, Aironet, AsyncOS, Bringing the Meeting To You, Catalyst, CCDA, CCDP, CCIE, CCIP, CCNA, CCNP, CCSP, CCVP, Cisco, the Cisco Certified Internetwork Expert logo, Cisco IOS, Cisco Press, Cisco Systems, Cisco Systems Capital, the Cisco Systems logo, Cisco Unity, Collaboration Without Limitation, EtherFast, EtherSwitch, Event Center, Fast Step, Follow Me Browsing, FormShare, GigaDrive, HomeLink, Internet Quotient, IOS, iPhone, iQ Expertise, the iQ logo, iQ Net Readiness Scorecard, iQuick Study, IronPort, the IronPort logo, LightStream, Linksys, MediaTone, MeetingPlace, MeetingPlace Chime Sound, MGX, Networkers, Networking Academy, Network Registrar, PCNow, PIX, PowerPanels, ProConnect, ScriptShare, SenderBase, SMARTnet, Spectrum Expert, StackWise, The Fastest Way to Increase Your Internet Quotient, TransPath, WebEx, and the WebEx logo are registered trademarks of Cisco Systems, Inc. and/or its affiliates in the United States and certain other countries.

All other trademarks mentioned in this document or Website are the property of their respective owners. The use of the word partner does not imply a partnership relationship between Cisco and any other company. (0807R)

このマニュアルで使用している IP アドレスは、実際のアドレスを示すものではありません。マニュアル内の例、コマンド出力、および図は、説明のみを目的として使用されています。説明の中に実際のアドレスが使用されていたとしても、それは意図的なものではなく、偶然の一致によるものです。

Cisco Unity Connection リコンフィギュレーション アップグレード ガイド
Copyright © 2008 Cisco Systems, Inc.
All rights reserved.

Copyright © 2009, シスコシステムズ合同会社 .
All rights reserved.



CONTENTS

はじめに	v
対象読者と用途	v
表記法	vi
Cisco Unity Connection のドキュメント	vii
マニュアルの入手方法、テクニカル サポート、およびセキュリティ ガイドライン	vii
シスコのテクニカル サポート	viii
Service Request ツールの使用	viii
その他の情報の入手方法	ix

CHAPTER 1

Cisco Unity Connection 2.x 以降からの出荷されている 7.x バージョンへのアップグレード 1-1

出荷されている 7.x バージョンに Connection ソフトウェアをアップグレードするためのタスク リスト	1-2
メモリ増設またはハードディスク交換（特定のサーバのみ）	1-3
Exchange 情報へのアクセス権を持つユーザの外部サービス アカウントにおける電子メール アドレスの調整	1-7

CHAPTER 2

Cisco Unity Connection 1.x からバージョン 7.x への移行 2-1

Connection 1.x からバージョン 7.x にデータを移行するためのツールについて	2-2
Connection 1.x to 2.x Migration Export ツール	2-2
COBRAS (Cisco Objected Backup and Restore Application Suite)	2-3
Connection 1.x からバージョン 7.x に移行するためのタスク リスト	2-4
メモリ増設またはハードディスク交換（特定のサーバのみ）	2-7
複数のテンプレートを使用してユーザ アカウントを作成するための準備	2-11
Connection 1.x to 2.x Migration Import ツールを使用したユーザ データとメッセージのインポート	2-12

CHAPTER 3

Cisco Unity 4.x 以降から Cisco Unity Connection 7.x への移行 3-1

Cisco Unity 4.x 以降から Connection バージョン 7.x に移行するためのツールについて	3-2
Cisco Unity 4.x to Connection 2.x Migration Export ツール	3-2
COBRAS (Cisco Objected Backup and Restore Application Suite)	3-3
Cisco Unity 4.x 以降から Connection 7.x に移行するためのタスク リスト	3-4

メモリ増設またはハードディスク交換（特定のサーバのみ） 3-7
 複数のテンプレートを使用してユーザ アカウントを作成するための準備 3-11
 Cisco Unity 4.x to Connection 2.x Migration Import ツールを使用したユーザ データとメッセージのインポート 3-12

CHAPTER 4

Cisco Unity Connection 7.x サーバの交換 4-1
 Connection クラスタが設定されていない単一の 7.x サーバの交換 4-2
 Connection クラスタ内の 7.x パブリッシャ サーバの交換 4-3
 Connection クラスタ内の 7.x サブスクリイバ サーバの交換 4-6
 Connection クラスタ内の 7.x パブリッシャ サーバおよびサブスクリイバ サーバの交換 4-9

CHAPTER 5

Cisco Unity Connection 7.x クラスタの作成または変更 5-1
 Connection クラスタを作成するための 7.x サーバの追加 5-2
 Connection クラスタが設定されていない単一サーバへの 7.x パブリッシャ サーバの変換 5-4

CHAPTER 6

Cisco Unity Connection 7.x サーバの IP アドレスの変更 6-1
 Connection クラスタ内の 7.x サーバの定義がホスト名か IP アドレスかの確認 6-2
 Connection 7.x サーバの IP アドレスの変更が必要な関連コンポーネント 6-3
 Connection クラスタが設定されていない単一の 7.x サーバの IP アドレスの変更 6-4
 ホスト名で定義されている 7.x パブリッシャ サーバの IP アドレスの変更 6-7
 IP アドレスで定義されている 7.x パブリッシャ サーバの IP アドレスの変更 6-10
 ホスト名で定義されている 7.x サブスクリイバ サーバの IP アドレスの変更 6-13
 IP アドレスで定義されている 7.x サブスクリイバ サーバの IP アドレスの変更 6-16

CHAPTER 7

Cisco Unity Connection 7.x サーバの名前の変更 7-1
 Connection クラスタが設定されていない単一の 7.x サーバの名前の変更 7-2
 Connection クラスタ内の 7.x パブリッシャ サーバの名前の変更 7-4
 Connection クラスタ内の 7.x サブスクリイバ サーバの名前の変更 7-6

INDEX

索引



はじめに

ここでは、次の内容について説明します。

- [対象読者と用途 \(P.v\)](#)
- [表記法 \(P.vi\)](#)
- [Cisco Unity Connection のドキュメント \(P.vii\)](#)
- [マニュアルの入手方法、テクニカル サポート、およびセキュリティ ガイドライン \(P.vii\)](#)
- [シスコのテクニカル サポート \(P.viii\)](#)
- [Service Request ツールの使用 \(P.viii\)](#)
- [その他の情報の入手方法 \(P.ix\)](#)

対象読者と用途

『Cisco Unity Connection リンコンフィギュレーション アップグレード ガイド』は、システム管理者と、Cisco Unity Connection システム構成のアップグレードおよび変更を担当する技術者の方を対象としています。

『Cisco Unity Connection リンコンフィギュレーション アップグレード ガイド』は、現在のシステム構成の変更に必要な情報と手順を説明しています。このドキュメントには、Cisco Unity Connection のデータ (ユーザ テンプレートやコール ハンドラなど) を変更するための情報は記載していません。

表記法

表 1 『Cisco Unity Connection リンコンフィギュレーション アップグレード ガイド』での表記法

表記	説明
太字	次の場合は太字を使用します。 <ul style="list-style-type: none"> キーおよびボタン名 (例:[OK]をクリックします) ユーザが入力する情報(例:[ユーザ名]ボックスに Administrator を入力します)
<> (山カッコ)	ユーザが入力するパラメータを囲むために使用します(例:[コマンドプロンプト]ウィンドウで、ping <IP アドレス>を入力します)
- (ハイフン)	同時に押す必要があるキーを表します(例:Ctrl-Alt-Delete を押します)
> (右向きの山カッコ)	メニューで選択する順序を表します(例:Windowsの[スタート]メニューから[設定]>[コントロールパネル]>[電話とモデムのオプション]を選択します)

『Cisco Unity Connection リンコンフィギュレーション アップグレード ガイド』では、次の表記法も使用します。



(注) 「注釈」です。役立つ情報や、このドキュメント以外の参照資料などを紹介しています。



注意

「要注意」の意味です。機器の損傷またはデータ損失を予防するための注意事項が記述されています。



警告

「危険」の意味です。人身事故を予防するための注意事項が記述されています。

このマニュアルに記載されている安全上の警告の各国語版については、
http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/regulatory/compliance/ucwarns.html の
『Regulatory Compliance and Safety Information for Cisco Unity Connection』を参照してください。

Cisco Unity Connection のドキュメント

Cisco.com 上の Cisco Unity Connection に関するドキュメントの説明と URL については、『*Documentation Guide for Cisco Unity Connection*』を参照してください。このドキュメントは Cisco Unity Connection に同梱されており、Cisco.com (http://www.cisco.com/en/US/products/ps6509/products_documentation_roadmaps_list.html) でも入手できます。



(注)

このマニュアルには、日本語化されたマニュアル名と英語版 URL が併記された箇所があります。日本語版マニュアルを参照する場合は、次の URL にアクセスしてください。

http://www.cisco.com/japanese/warp/public/3/jp/service/manual_j/index_uc_cuc.shtml

マニュアルの入手方法、テクニカル サポート、およびセキュリティ ガイドライン

マニュアルの入手方法、Service Request ツールの使用方法、および追加情報の収集方法については、次の URL で、毎月更新される『*What's New in Cisco Product Documentation*』を参照してください。『*What's New in Cisco Product Documentation*』には、シスコの新規および改訂版の技術マニュアルの一覧も示されています。

<http://www.cisco.com/en/US/docs/general/whatsnew/whatsnew.html>

Really Simple Syndication (RSS) フィードとして『*What's New in Cisco Product Documentation*』に登録し、リーダアプリケーションを使用して、コンテンツがデスクトップに直接配信されるように設定します。RSS フィードは無料サービスです。シスコは現在、RSS バージョン 2.0 をサポートしています。

シスコのテクニカル サポート

次の URL にアクセスして、シスコのテクニカル サポートを最大限に活用してください。

<http://www.cisco.com/en/US/support/index.html>

以下を含むさまざまな作業にこの Web サイトが役立ちます。

- テクニカル サポートを受ける
- ソフトウェアをダウンロードする
- セキュリティの脆弱性を報告する、またはシスコ製品のセキュリティ問題に対する支援を受ける
- ツールおよびリソースへアクセスする
 - Product Alert の受信登録
 - Field Notice の受信登録
 - Bug Toolkit を使用した既知の問題の検索
- Networking Professionals (NetPro) コミュニティで、技術関連のディスカッションに参加する
- トレーニング リソースへアクセスする
- TAC Case Collection ツールを使用して、ハードウェアや設定、パフォーマンスに関する一般的な問題をインタラクティブに特定および解決する

Japan テクニカル サポート Web サイトでは、Technical Support Web サイト (<http://www.cisco.com/techsupport>) の、利用頻度の高い ドキュメントを日本語で提供しています。Japan テクニカル サポート Web サイトには、次の URL からアクセスしてください。

<http://www.cisco.com/jp/go/tac>

Service Request ツールの使用

Service Request ツールには、次の URL からアクセスできます。

<http://www.cisco.com/techsupport/servicerequest>

日本語版の Service Request ツールは次の URL からアクセスできます。

<http://www.cisco.com/jp/go/tac/sr/>

シスコの世界各国の連絡先一覧は、次の URL で参照できます。

<http://www.cisco.com/warp/public/687/Directory/DirTAC.shtml>

その他の情報の入手方法

シスコの製品、サービス、テクノロジー、ネットワークング ソリューションに関する情報について、さまざまな資料をオンラインで入手できます。

- シスコの E メール ニュースレターなどの配信申し込みについては、Cisco Subscription Center にアクセスしてください。
<http://www.cisco.com/offer/subscribe>
- 日本語の月刊 Email ニュースレター「Cisco Customer Bridge」については、下記にアクセスください。
http://www.cisco.com/web/JP/news/cisco_news_letter/ccb/
- シスコ製品に関する変更やアップデートの情報を受信するには、Product Alert Tool にアクセスし、プロファイルを作成して情報の配信を希望する製品を選択してください。Product Alert Tool には、次の URL からアクセスできます。
<http://tools.cisco.com/Support/PAT/do/ViewMyProfiles.do?local=en>
- 『Cisco Product Quick Reference Guide』はリファレンス ツールで、パートナーを通じて販売されている多くのシスコ製品に関する製品概要、主な機能、製品番号、および簡単な技術仕様が記載されています。『Cisco Product Quick Reference Guide』を発注するには、次の URL にアクセスしてください。
<http://www.cisco.com/go/guide>
- ネットワークの運用面の信頼性を向上させることのできる最新の専門的サービス、高度なサービス、リモート サービスに関する情報については、Cisco Services Web サイトを参照してください。Cisco Services Web サイトには、次の URL からアクセスできます。
<http://www.cisco.com/go/services>
- Cisco Marketplace では、さまざまなシスコの書籍、参考資料、マニュアル、ロゴ入り商品を提供しています。Cisco Marketplace には、次の URL からアクセスできます。
<http://www.cisco.com/go/marketplace/>
- DVD に収録されたシスコの技術マニュアル (Cisco Product Documentation DVD) は、Product Documentation Store で発注できます。Product Documentation Store には、次の URL からアクセスできます。
<http://www.cisco.com/go/marketplace/docstore>
- 日本語マニュアルの DVD は、マニュアルセンターから発注できます。マニュアルセンターには下記よりアクセスください。
http://www.cisco.com/japanese/warp/public/3/jp/service/manual_j/manual_center/index.shtml
- Cisco Press では、ネットワーク、トレーニング、認定関連の出版物を発行しています。Cisco Press には、次の URL からアクセスできます。
<http://www.ciscopress.com>
- 日本語のシスコプレスの情報は以下にアクセスください。
<http://www.seshop.com/se/ciscopress/default.asp>
- 『Internet Protocol Journal』は、インターネットおよびイントラネットの設計、開発、運用を担当するエンジニア向けに、シスコが発行する季刊誌です。『Internet Protocol Journal』には、次の URL からアクセスできます。
<http://www.cisco.com/ipj>
- 『What's New in Cisco Product Documentation』は、シスコ製品の最新マニュアル リリースに関する情報を提供するオンライン資料です。毎月更新されるこの資料は、製品カテゴリ別にまとめられているため、目的の製品マニュアルを見つけることができます。
<http://www.cisco.com/en/US/docs/general/whatsnew/whatsnew.html>
- シスコの Web サイトの各国語版へは、次の URL からアクセスしてください。
http://www.cisco.com/public/countries_languages.shtml



CHAPTER

1

Cisco Unity Connection 2.x 以降からの出荷されている 7.x バージョンへのアップグレード

この章は、次の項で構成されています。

- [出荷されている 7.x バージョンに Connection ソフトウェアをアップグレードするためのタスクリスト \(P.1-2\)](#)
- [メモリ増設またはハードディスク交換 \(特定のサーバのみ\)\(P.1-3\)](#)
- [Exchange 情報へのアクセス権を持つユーザの外部サービス アカウントにおける電子メール アドレスの調整 \(P.1-7\)](#)

出荷されている 7.x バージョンに Connection ソフトウェアをアップグレードするためのタスク リスト

バージョン 7.x へのアップグレードは、Cisco Unity Connection バージョン 2.x 以降でサポートされています。

1. 新しいサーバを設置するのではなく、現在のサーバで Connection をアップグレードする場合は、『Cisco Unity Connection サポート対象プラットフォーム』を参照し、サーバでハードディスクの交換または RAM の増設が必要かどうかを確認してください。このマニュアルは、http://www.cisco.com/en/US/products/ps6509/products_data_sheets_list.html から入手可能です。
2. Connection 7.x へのアップグレードに必要なライセンス ファイルを取得します。この段階ではファイルをインストールしないでください。インストールは、以降のアップグレード プロセスで行います。
http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/7x/administration/guide/7xcucsagx.html にある『Cisco Unity Connection システムアドミニストレーションガイド Release 7.x』の「ライセンスの管理」の章を参照してください。
3. アップグレードに必要なソフトウェアが手元にあることを確認します。アップグレード ソフトウェアをダウンロードできるか、または DVD で入手する必要があるかどうかについては、http://www.cisco.com/en/US/products/ps6509/prod_release_notes_list.html で、該当する『Cisco Unity Connection リリースノート』の「インストールとアップグレードに関する情報」の項を参照してください。
4. Connection サーバに複数の言語がインストールされた状況で、引き続き複数の言語を使用する場合：該当する Connection 7.x 言語ファイルをダウンロードします。
http://www.cisco.com/en/US/products/ps6509/prod_release_notes_list.html で、該当する『Cisco Unity Connection リリースノート』の「Cisco Unity Connection の言語のダウンロードとインストール」の項を参照してください。



注意

Connection サーバに複数の言語がインストールされ、使用されている場合は、以降のアップグレード プロセスで Connection 7.x バージョンの同じ言語をインストールする必要があります。これを行わないと、Connection のカンパセーションが一部のユーザに対して正常に動作しなくなります。

5. 出荷されているバージョンへのアップグレードに関する詳細については、該当するバージョンの『Cisco Unity Connection リリースノート』を参照してください。特に、「インストールとアップグレードに関する情報」の項の情報に注意してください。リリース ノートは、http://www.cisco.com/en/US/products/ps6509/prod_release_notes_list.html から入手可能です。
6. 必要に応じて、ハードディスクの交換または RAM の増設を行います。P.1-3 の「メモリ増設またはハードディスク交換 (特定のサーバのみ)」を参照してください。
7. Connection サーバでソフトウェアをアップグレードします。
http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/7x/os_administration/guide/7xcucosagx.html にある『Cisco Unified Communications Operating System アドミニストレーションガイド for Cisco Unity Connection Release 7.x』の「ソフトウェア アップグレード」の章の「ソフトウェアのアップグレードとインストール」の項を参照してください。
8. タスク 2. で取得したライセンス ファイルをインストールします。
http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/7x/administration/guide/7xcucsagx.html にある『Cisco Unity Connection システムアドミニストレーションガイド Release 7.x』の「ライセンスの管理」の章を参照してください。
9. 必要に応じて、Connection 7.x の言語をインストールします。
http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/7x/os_administration/guide/7xcucosagx.html にある『Cisco Unified Communications Operating System アドミニストレーションガイド for Cisco Unity Connection Release 7.x』の「ソフトウェア アップグレード」の章の「ロケールのインストール」の項を参照してください。

10. *Connection 2.x* のユーザに *Exchange* の連絡先およびカレンダー情報へのアクセス権が付与されている場合：各ユーザの外部サービス アカウントにおいて電子メール アドレスを調整します。P.1-7 の「[Exchange 情報へのアクセス権を持つユーザの外部サービス アカウントにおける電子メール アドレスの調整](#)」を参照してください。

メモリ増設またはハードディスク交換（特定のサーバのみ）



(注) アップグレードするサーバでメモリ増設もハードディスク交換も必要ない場合は、この項を省略してください。

Cisco Unity Connection の使用に適したサーバにするには、次の作業が必要になる場合があります。

- 任意の構成で *Connection 7.x* を実行するためのメモリ増設
- 音声認識とデジタル ネットワーキングの両方が設定されている場合に、指定された数の *Connection* ユーザをサポートするためのメモリ増設
- *Connection* クラスタをサポートするためのハードディスク交換

http://www.cisco.com/en/US/products/ps6509/products_data_sheets_list.html にある『*Cisco Unity Connection* サポート対象プラットフォーム』で、該当するサーバ固有の表を参照してください。



警告

オン/オフスイッチのあるシステムで作業を始める場合は、はじめに電源スイッチをオフにし、電源コードのプラグを抜いてください。ステートメント 1



警告

シャーシを開ける前に、TNV (Telephone Network Voltage; 電話網電圧) に接触しないように電話網ケーブルの接続を切ります。ステートメント 2



警告

この装置の設置およびメンテナンス作業は、AS/NZS 3260 の 1.2.14.3 条に定義されているサービス要員が行う必要があります。ステートメント 88



警告

この手順を行う際には、ESD によるカードの損傷を防ぐため、静電気防止用リストストラップを着用してください。電気ショックを防ぐために、装置の背面を直接手や金属で触らないようにします。ステートメント 94



警告

この製品には安全カバーが不可欠です。安全カバーを設置していない装置は操作しないでください。安全カバーが正しく設置されていない装置を扱っていると、安全認可が無効になり、火災や電気による事故を引き起こす恐れがあります。ステートメント 117

■ メモリ増設またはハードディスク交換 (特定のサーバのみ)



警告

雷が発生しているときは、システムに手を加えたり、ケーブルの接続や取り外しを行わないでください。ステートメント 1001



警告

必ず設置手順を読んでから、システムを電源に接続してください。ステートメント 1004



警告

この装置をラックに設置したり保守作業を行ったりするときは、人身事故を防ぐため、システムが安定しているかどうかを十分に確認する必要があります。次の注意事項に従ってください。

- ラックにこの装置を単独で設置する場合は、ラックの一番下に設置します。
- ラックに別の装置がすでに設置されている場合は、最も重量のある装置を一番下にして、重い順に下から上へ設置します。
- ラックに安定器具が付属している場合は、その安定器具を取り付けてから、装置をラックに設置するか、またはラック内の装置の保守作業を行ってください。ステートメント 1006



警告

不適切なバッテリーに交換すると、爆発の危険性があります。製造元が推奨するものと同じまたは同等のバッテリーだけを使用してください。使用済みバッテリーは、製造元が指示する方法に従って処分してください。ステートメント 1015



警告

この装置は立ち入り制限区域内に設置することが前提になっています。立ち入り制限区域とは、鍵、錠、またはその他の保全手段を使用しないと立ち入ることができない区域です。ステートメント 1017



警告

感電事故を防ぐため、Safety Extra-low Voltage (SELV) 回路を Telephone-Network Voltage (TNV ; 電話網電圧) 回路に接続しないでください。LAN ポートには SELV 回路、WAN ポートには TNV 回路が使用されています。LAN ポートおよび WAN ポートによっては、どちらも RJ-45 コネクタが使用されている場合があります。ケーブルを接続するときは注意してください。ステートメント 1021



警告

火災の危険性を抑えるため、No. 26 AWG 以上の通信回線コードだけを使用してください。ステートメント 1023



警告

この装置はアース接続する必要があります。アース導体を破損しないよう注意し、アース導体を正しく取り付けないまま装置を稼働させないでください。アース接続が適正であるかどうかわからない場合には、電気検査機関または電気技術者に相談してください。ステートメント 1024

**警告**

ブランクの前面プレートおよびカバー パネルは、3つの重要な役割を果たします。シャーシ内部の危険な電圧および電流に接触しないように防御の役割を果たします。他の機器に悪影響を与える EMI（電磁干渉）を外に出しません。さらに、シャーシ全体に冷却用の空気を流します。カード、前面プレート、前面カバー、および背面カバーがすべて取り付けられてから、システムを稼働させてください。ステートメント 1029

**警告**

この装置の設置、交換、保守は、訓練を受けた相応の資格のある人が行ってください。ステートメント 1030

**警告**

この製品を廃棄処分する際は、各国の法律および規制に従って取り扱ってください。ステートメント 1040

上記の安全上の警告の各国語版については、
http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/regulatory/compliance/ucwarns.html にある『*Regulatory Compliance and Safety Information for Cisco Unity Connection*』を参照してください。

メモリを増設する、またはハードディスクを交換する（特定のサーバのみ）

ステップ 1 カバーを取り外します。

ステップ 2 メモリを増設しない場合は、**ステップ 3** に進みます。

サーバモデルに応じて、メモリ モジュールを適切なスロットまたは場所に取り付けます。詳細については、http://www.cisco.com/en/US/products/ps6509/products_data_sheets_list.html にある『*Cisco Unity Connection サポート対象プラットフォーム*』を参照してください。

**注意**

新しいメモリ モジュールを誤ったスロットに取り付けると、サーバとオペレーティングシステムがそのモジュールを認識しない場合や、Cisco Unity Connection のパフォーマンスが低下する場合があります。

ステップ 3 ハードディスクを交換しない場合は、**ステップ 4** に進みます。

**注意**

既存のハードディスクを取り外し、それと同じ台数のハードディスクを取り付ける必要があります。台数が異なると、Cisco Unity Connection のインストールが失敗します。

次の手順に従って、ハードディスクを交換します。

- サーバにおけるハードディスクの現在の場所（ハードディスクとハードディスク スロットの対応関係も含む）を書き留めます。交換時に障害が発生して現在の構成に戻す必要が生じた場合に、既存のハードディスクを現在の場所に戻す必要があるためです。

■ メモリ増設またはハードディスク交換 (特定のサーバのみ)

- b. サーバからドライブトレイを取り外します。
- c. ドライブトレイから古いハードディスクを取り外します。
- d. 新しいハードディスクをドライブトレイに装着します。
- e. ステップ a. で書き留めた場所にドライブトレイを再度取り付けます。

ステップ 4 カバーを再度取り付けます。

Exchange 情報へのアクセス権を持つユーザの外部サービス アカウントにおける電子メール アドレスの調整

この項の手順は、Connection 2.x からアップグレードする場合にのみ必要です（外部サービス アカウントのデータベース エントリが、バージョン 7.x に移行されます）。

Connection 2.x が Exchange の連絡先およびカレンダー情報にアクセスするように設定されている場合、Connection 7.x のカレンダー連動機能の一部（ボイス メッセージを会議の開催者または参加者に送信する機能など）が正常に動作しないことがあります。

この問題を回避するため、Exchange の連絡先およびカレンダー情報へのアクセス権を持つ各ユーザの外部サービス アカウントにおいて、次の手順を実行します。

Exchange 情報へのアクセス権を持つユーザの外部サービス アカウントにおいて電子メール アドレスを調整する

-
- ステップ 1** Cisco Unity Connection の管理で、[ユーザ (Users)] を展開し、[ユーザ (Users)] をクリックします。
 - ステップ 2** [ユーザの検索 (Search Users)] ページで、ユーザのエイリアスをクリックします。
 - ステップ 3** [ユーザの基本設定の編集 (Edit User Basics)] ページの [編集 (Edit)] メニューで、[外部サービスのアカウント (External Service Accounts)] をクリックします。
 - ステップ 4** [外部サービスのアカウント (External Service Accounts)] ページで、[サービス タイプ (Service Type)] が [Exchange 2007] または [Exchange 2003] になっていて、[予定表へのユーザ アクセス (User Access to Calendar)] が有効になっているサービスの表示名をクリックします。
 - ステップ 5** [外部サービスのアカウントの編集 (Edit External Service Account)] ページの [電子メール (Email Address)] フィールドに、ユーザの Exchange メールボックスのプライマリ SMTP アドレスを入力し、[保存 (Save)] をクリックします。
 - ステップ 6** [テスト (Test)] をクリックして、[電子メール (Email Address)] フィールドのエントリを確認します。
 - ステップ 7** [サービス タイプ (Service Type)] が [Exchange 2007] または [Exchange 2003] になっていて、[予定表へのユーザ アクセス (User Access to Calendar)] が有効になっている残りのサービスすべてについて、[ステップ 4](#) ~ [ステップ 6](#) を繰り返します。
 - ステップ 8** Exchange の連絡先およびカレンダー情報へのアクセス権を持つ残りのユーザすべてについて、この手順を繰り返します。
-

■ Exchange 情報へのアクセス権を持つユーザの外部サービス アカウントにおける電子メールアドレスの調整



Cisco Unity Connection 1.x からバージョン 7.x への移行

この章は、次の項で構成されています。

- [Connection 1.x からバージョン 7.x にデータを移行するためのツールについて \(P.2-2\)](#)
- [Connection 1.x からバージョン 7.x に移行するためのタスク リスト \(P.2-4\)](#)
- [メモリ増設またはハードディスク交換 \(特定のサーバのみ\) \(P.2-7\)](#)
- [複数のテンプレートを使用してユーザ アカウントを作成するための準備 \(P.2-11\)](#)
- [Connection 1.x to 2.x Migration Import ツールを使用したユーザ データとメッセージのインポート \(P.2-12\)](#)

Connection 1.x からバージョン 7.x にデータを移行するためのツールについて



(注)

Cisco Unity Connection 7.x は、Windows ではなく Linux を実行しているサーバにインストールされるため、単純にバージョン 1.x からバージョン 7.x にアップグレードすることはできません。

Connection 1.x システムから Connection 7.x にユーザ データとオプションのボイス メッセージを移行するには、次の各項で説明するツールのいずれかを使用して、1.x システムからデータとメッセージをエクスポートする必要があります。

- [Connection 1.x to 2.x Migration Export ツール](#)
- [COBRAS \(Cisco Objected Backup and Restore Application Suite\)](#)

Connection 1.x to 2.x Migration Export ツール



(注)

Migration Export ツールを Connection バージョン 7.x 用に更新する必要はありません。ツール名に 2.x というバージョン番号が含まれていますが、7.x への移行エクスポートは正常に行われます。

このツールには次の利点があります。

- Cisco TAC でサポートされている。
- Connection バージョン 1.1 および 1.2 からデータをエクスポートできる。
- COBRAS (Cisco Objected Backup and Restore Application Suite) の使用時に問題が発生した場合に予備の移行手段として使用できる。

一方、このツールには次の欠点もあります。

- エクスポートできるデータが COBRAS よりも少ない。Connection 1.x to 2.x Migration Export ツールによってエクスポートされるデータの詳細については、<http://www.ciscounitytools.com/HelpFiles/CUC1xTo2xMigrationExport/CUC1xToCUC2xMigrationExport.htm> にあるツールのヘルプを参照してください。
- Connection 1.x のデータとメッセージをインポートするには、Secure Shell (SSH; セキュアシェル) サーバ アプリケーションを実行するサーバが必要になる。SSH サーバ アプリケーションの設定作業は、複雑で時間がかかる場合があります。テストは OpenSSH for Windows のみで行っています。他の SSH アプリケーションについては、移行時の問題点がお客様より報告されています。

Migration Export ツールは、http://www.ciscounitytools.com/App_CUC1xTo2xMigrationExport.htm から入手可能です。



(注)

COBRAS が Cisco TAC でサポートされるようになった時点では、Connection データをエクスポートするときに Connection 1.x to 2.x Migration Export ツールを使用する必要はありません。このエクスポートツールは、予備的な手段とすることをお勧めします。

COBRAS (Cisco Objected Backup and Restore Application Suite)

このツールには次の利点があります。

- エクスポートできるデータが Connection 1.x to 2.x Migration Export ツールよりも多い。詳細については、<http://www.ciscounitytools.com/Applications/COBRAS/Help/COBRAS.htm> にある COBRAS のヘルプを参照してください。
- セキュア シェル (SSH) サーバ アプリケーションを実行するサーバが不要になる。

一方、このツールには次の欠点もあります。

- データのエクスポート元が Connection バージョン 1.2 に限られる。
- このマニュアルが最初に発行された時点で、COBRAS はテストが完了していないため、Cisco TAC でサポートされていない。現在サポートされているかどうかを確認するには、http://www.ciscounitytools.com/App_COBRAS.htm の Cisco Unity Tools Web サイトにある COBRAS のページを参照してください。

COBRAS は、http://www.ciscounitytools.com/App_COBRAS.htm から入手可能です。

Connection 1.x からバージョン 7.x に移行するためのタスク リスト

Connection 7.x に正しく移行するには、次の大まかなタスク リストに従います。タスクでは、このマニュアルや他の Connection マニュアル内の詳細な手順を参照しています。その手順に従って正しく移行してください。

1. 新しいサーバを設置するのではなく、現在の Connection サーバを再利用する場合は、『Cisco Unity Connection サポート対象プラットフォーム』を参照し、サーバでハードディスクの交換または RAM の増設が必要かどうかを確認してください。このマニュアルは、http://www.cisco.com/en/US/products/ps6509/products_data_sheets_list.html から入手可能です。
2. Cisco Unity Connection 7.x へのアップグレードに必要なライセンス ファイルを取得します。この段階ではファイルをインストールしないでください。インストールは、後の移行プロセスで行います。
http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/7x/administration/guide/7xcucsagx.html にある『Cisco Unity Connection システムアドミニストレーションガイド Release 7.x』の「ライセンスの管理」の章を参照してください。
3. http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/7x/requirements/7xcucsysreqs.html にある『Cisco Unity Connection 7.x システム要件』の「Cisco Unity Connection 1.x からバージョン 7.x への移行の要件」の項を参照してください。
4. 出荷されているバージョンへのアップグレードに関する詳細については、該当するバージョンの『Cisco Unity Connection リリースノート』を参照してください。特に、「インストールとアップグレードに関する情報」の項の情報に注意してください。リリース ノートは、http://www.cisco.com/en/US/products/ps6509/prod_release_notes_list.html から入手可能です。
5. 次のツールをダウンロードします。
 - Connection 1.x Disaster Recovery Tool。このツールは、http://www.ciscocitytools.com/App_CUC_DisasterRecoveryTool.htm から入手可能です。
 - Connection 1.1 および 1.2 の場合 : Connection 1.x to 2.x Migration Export ツール。このツールは、http://www.ciscocitytools.com/App_CUC1xTo2xMigrationExport.htm から入手可能です。
 - Connection サーバが現在 Connection 1.2 を実行している場合 : COBRAS。このツールは、http://www.ciscocitytools.com/App_COBRAS.htm から入手可能です。COBRAS が現在 Cisco TAC でサポートされているかどうかを確認してください。



(注) COBRAS が Cisco TAC でサポートされるようになった時点では、Connection データをエクスポートするときに Connection 1.x to 2.x Migration Export ツールを使用する必要はありません。このエクスポート ツールは、予備的な手段とすることをお勧めします。


6. タスク 5. でダウンロードしたツールをインストールします。
7. Connection 1.x Disaster Recovery Tool を使用して、サーバをバックアップします。このバックアップは、Connection 7.x システム上でデータを復元するために使用するものではありません。必要に応じて Connection 1.x に戻す場合にのみ使用することをお勧めします。



(注) Connection 1.x Disaster Recovery Tool は、Connection 2.x 以降で使用できる Disaster Recovery System とは異なります。

8. Connection 1.1 からエクスポートする予定だが、Connection 7.x サーバにアクセス可能なサーバにセキュア シェル (SSH) サーバ アプリケーションがまだインストールされていない場合 : SSH サーバ アプリケーションをインストールします。Connection 1.x のデータを Connection 7.x にインポートする移行ツールは、エクスポートされたユーザ データとメッセージにアクセスするときに SSH を使用します。

9. Connection 1.x to 2.x Migration Export ツールを使用して、次に示すバージョン別の場所に Connection 1.x のデータとメッセージをエクスポートします。

Connection 1.1	Connection 7.x サーバにアクセス可能な SSH サーバにエクスポートします。
Connection 1.2	<p>Connection 7.x サーバにアクセス可能なサーバにセキュア シェル (SSH) サーバ アプリケーションがインストールされている場合は、その SSH サーバにエクスポートします。</p> <p>または</p> <p>SSH サーバがない場合は、任意のネットワーク ロケーションにデータをエクスポートします。必要に応じて、後で SSH サーバをセットアップします。</p> <p></p> <p>(注) Migration Export ツールでエクスポートしたデータを使用するのは、後の移行プロセスで COBRAS を使用してデータをエクスポートするときに、何らかの理由で障害が発生した場合に限られます。</p>

詳細については、

<http://www.ciscounitytools.com/HelpFiles/CUC1xTo2xMigrationExport/CUC1xToCUC2xMigrationExport.htm> にあるツールのヘルプを参照してください。

10. *Connection* サーバがバージョン 1.2 を実行している場合 : COBRAS を使用して Connection のデータとメッセージをエクスポートします。詳細については、<http://www.ciscounitytools.com/Applications/COBRAS/Help/COBRAS.htm> にある COBRAS のヘルプを参照してください。
11. メモリの増設またはハードディスクの交換が必要な場合 : その作業を行います。このマニュアルの P.2-7 の「メモリ増設またはハードディスク交換 (特定のサーバのみ)」を参照してください。
12. Connection 7.x をインストールし、設定を開始します。
http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/7x/installation/guide/7xcucigx.html にある『Cisco Unity Connection インストールガイド Release 7.x』の「Cisco Unity Connection 7.x システムのインストールに必要なタスクの概要」の章で、「Cisco Unity Connection 7.x システム (Connection クラスタなし) インストール用タスク リスト」のパート 1 ~ パート 3 を参照してください。
13. 次のどちらかの方法で、ユーザ データと通話管理データをシステムに入力します。

COBRAS を使用してインポートする	<p>次のマニュアルを参照してください。</p> <ol style="list-style-type: none"> COBRAS のヘルプ。エクスポートおよびインポートするデータについて確認してください。 『Cisco Unity Connection インストールガイド Release 7.x』の「Cisco Unity Connection 7.x システムのインストールに必要なタスクの概要」の章にある「Cisco Unity Connection 7.x システム (Connection クラスタなし) インストール用タスク リスト」の「パート 4 : システムへのユーザ データと通話管理データの入力」。インポートするデータに関するタスクは省略してください。
---------------------	--

■ Connection 1.x からバージョン 7.x に移行するためのタスク リスト

<p>Connection 1.x to 2.x Migration Export ツールを使用してインポートする</p>	<p>次のマニュアルを参照してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> a. Migration Export ツールのヘルプ。エクスポートおよびインポートするデータについて確認してください。 b. 『Cisco Unity Connection インストレーションガイド Release 7.x』の「Cisco Unity Connection 7.x システムのインストールに必要なタスクの概要」の章にある「Cisco Unity Connection 7.x システム (Connection クラスタなし) インストール用タスク リスト」の「パート 4 : システムへのユーザ データと通話管理データの入力」。インポートするデータに関するタスクは省略してください。 c. このマニュアルの P.2-11 の「複数のテンプレートを使用してユーザ アカウントを作成するための準備」。 d. このマニュアルの P.2-12 の「Connection 1.x to 2.x Migration Import ツールを使用したユーザ データとメッセージのインポート」。
---	---

14. Connection 7.x の設定を完了します。『Cisco Unity Connection インストレーションガイド Release 7.x』の「Cisco Unity Connection 7.x システムのインストールに必要なタスクの概要」の章にある「Cisco Unity Connection 7.x システム (Connection クラスタなし) インストール用タスク リスト」のパート 5 ~ パート 9 を参照してください。

メモリ増設またはハードディスク交換（特定のサーバのみ）



(注) アップグレードするサーバでメモリ増設もハードディスク交換も必要ない場合は、この項を省略してください。

Cisco Unity Connection の使用に適したサーバにするには、次の作業が必要になる場合があります。

- 任意の構成で Connection 7.x を実行するためのメモリ増設
- 音声認識とデジタル ネットワーキングの両方が設定されている場合に、指定された数の Connection ユーザをサポートするためのメモリ増設
- Connection クラスタをサポートするためのハードディスク交換

http://www.cisco.com/en/US/products/ps6509/products_data_sheets_list.html にある『Cisco Unity Connection サポート対象プラットフォーム』で、該当するサーバ固有の表を参照してください。



警告

オン/オフスイッチのあるシステムで作業を始める場合は、はじめに電源スイッチをオフにし、電源コードのプラグを抜いてください。ステートメント 1



警告

シャーシを開ける前に、TNV (Telephone Network Voltage; 電話網電圧) に接触しないように電話網ケーブルの接続を切ります。ステートメント 2



警告

この装置の設置およびメンテナンス作業は、AS/NZS 3260 の 1.2.14.3 条に定義されているサービス要員が行う必要があります。ステートメント 88



警告

この手順を行う際には、ESD によるカードの損傷を防ぐため、静電気防止用リストストラップを着用してください。電気ショックを防ぐために、装置の背面を直接手や金属で触らないようにします。ステートメント 94



警告

この製品には安全カバーが不可欠です。安全カバーを設置していない装置は操作しないでください。安全カバーが正しく設置されていない装置を扱うと、安全認可が無効になり、火災や電気による事故を引き起こす恐れがあります。ステートメント 117



警告

雷が発生しているときは、システムに手を加えたり、ケーブルの接続や取り外しを行わないでください。ステートメント 1001

■ メモリ増設またはハードディスク交換 (特定のサーバのみ)

**警告**

必ず設置手順を読んでから、システムを電源に接続してください。ステートメント 1004

**警告**

この装置をラックに設置したり保守作業を行ったりするときは、人身事故を防ぐため、システムが安定しているかどうかを十分に確認する必要があります。次の注意事項に従ってください。

- ラックにこの装置を単独で設置する場合は、ラックの一番下に設置します。
- ラックに別の装置がすでに設置されている場合は、最も重量のある装置を一番下にして、重い順に下から上へ設置します。
- ラックに安定器具が付属している場合は、その安定器具を取り付けてから、装置をラックに設置するか、またはラック内の装置の保守作業を行ってください。ステートメント 1006

**警告**

不適切なバッテリーに交換すると、爆発の危険性があります。製造元が推奨するものと同じまたは同等のバッテリーだけを使用してください。使用済みバッテリーは、製造元が指示する方法に従って処分してください。ステートメント 1015

**警告**

この装置は立ち入り制限区域内に設置することが前提になっています。立ち入り制限区域とは、鍵、錠、またはその他の保全手段を使用しないと立ち入ることができない区域です。ステートメント 1017

**警告**

感電事故を防ぐため、Safety Extra-low Voltage (SELV) 回路を Telephone-Network Voltage (TNV; 電話網電圧) 回路に接続しないでください。LAN ポートには SELV 回路、WAN ポートには TNV 回路が使用されています。LAN ポートおよび WAN ポートによっては、どちらも RJ-45 コネクタが使用されている場合があります。ケーブルを接続するときは注意してください。ステートメント 1021

**警告**

火災の危険性を抑えるため、No. 26 AWG 以上の通信回線コードだけを使用してください。ステートメント 1023

**警告**

この装置はアース接続する必要があります。アース導体を破損しないよう注意し、アース導体を正しく取り付けないまま装置を稼働させないでください。アース接続が適正であるかどうかわからない場合には、電気検査機関または電気技術者に相談してください。ステートメント 1024

**警告**

ブランクの前面プレートおよびカバー パネルは、3つの重要な役割を果たします。シャーシ内部の危険な電圧および電流に接触しないように防御の役割を果たします。他の機器に悪影響を与える EMI（電磁干渉）を外に出しません。さらに、シャーシ全体に冷却用の空気を流します。カード、前面プレート、前面カバー、および背面カバーがすべて取り付けられてから、システムを稼働させてください。ステートメント 1029

**警告**

この装置の設置、交換、保守は、訓練を受けた相応の資格のある人が行ってください。ステートメント 1030

**警告**

この製品を廃棄処分する際は、各国の法律および規制に従って取り扱ってください。ステートメント 1040

上記の安全上の警告の各国語版については、

http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/regulatory/compliance/ucwarns.html にある『*Regulatory Compliance and Safety Information for Cisco Unity Connection*』を参照してください。

メモリを増設する、またはハードディスクを交換する（特定のサーバのみ）

ステップ 1 カバーを取り外します。

ステップ 2 メモリを増設しない場合は、**ステップ 3** に進みます。

サーバモデルに応じて、メモリ モジュールを適切なスロットまたは場所に取り付けます。詳細については、http://www.cisco.com/en/US/products/ps6509/products_data_sheets_list.html にある『*Cisco Unity Connection サポート対象プラットフォーム*』を参照してください。

**注意**

新しいメモリ モジュールを誤ったスロットに取り付けると、サーバとオペレーティング システムがそのモジュールを認識しない場合や、Cisco Unity Connection のパフォーマンスが低下する場合があります。

ステップ 3 ハードディスクを交換しない場合は、**ステップ 4** に進みます。

**注意**

既存のハードディスクを取り外し、それと同じ台数のハードディスクを取り付ける必要があります。台数が異なると、Cisco Unity Connection のインストールが失敗します。

次の手順に従って、ハードディスクを交換します。

- a. サーバにおけるハードディスクの現在の場所（ハードディスクとハードディスク スロットの対応関係も含む）を書き留めます。交換時に障害が発生して現在の構成に戻す必要が生じた場合に、既存のハードディスクを現在の場所に戻す必要があるためです。
- b. サーバからドライブトレイを取り外します。

■ メモリ増設またはハードディスク交換 (特定のサーバのみ)

- c. ドライブトレイから古いハードディスクを取り外します。
- d. 新しいハードディスクをドライブトレイに装着します。
- e. ステップ a. で書き留めた場所にドライブトレイを再度取り付けます。

ステップ 4 カバーを再度取り付けます。

複数のテンプレートを使用してユーザアカウントを作成するための準備

Connection 1.x からユーザデータをエクスポートするユーティリティでは、全ユーザのデータを含む CSV ファイルが 1 つ作成されます。一方、Connection 7.x にデータをインポートするユーティリティでは、CSV ファイル 1 つごとに 1 つのテンプレートを使用して新しいユーザアカウントが作成されます。ユーザアカウントを作成するときに複数のテンプレートを使用する場合は、1 つの CSV ファイルをテンプレートと同じ数の CSV ファイルに分割すると便利です (テンプレートへのユーザの割り振り方によっては、1 つのテンプレートを使用してすべてのユーザアカウントを作成してから、ユーザ設定を個別に変更した方が早く作業が完了する場合があります)。

複数のテンプレートを使用してユーザアカウントを作成するための複数の CSV ファイルを準備する

-
- ステップ 1** Connection 1.x のデータをエクスポートした場所に、使用するテンプレートごとにサブディレクトリを作成します。各サブディレクトリには、対応するテンプレートと同じ名前を付けます。
- ステップ 2** CSV ファイルを各サブディレクトリにコピーします。ファイル名は、元の CSV ファイルと同じにします。ファイル名が異なると、インポートが失敗します。
- ステップ 3** Connection 1.x のデータをエクスポートした場所にあるすべての録音名 WAV ファイルを、[ステップ 1](#) で作成した各サブディレクトリにコピーします。ファイル名の形式は、<user_alias>_VOICE_NAME.wav です。

CSV ファイルからユーザデータをインポートすると、対応する録音名 WAV ファイルもインポートされます。インポートユーティリティがこのファイルを検索する場所は、インポート元の CSV ファイルを含むディレクトリに限られます。

- ステップ 4** 各サブディレクトリ内の CSV ファイルを開き、対応するテンプレートを使用したインポートの対象ではないユーザの行を削除します。

たとえば、SalesStaffTemplate ディレクトリ内の CSV ファイルを編集する場合は、SalesStaffTemplate を使用したアカウント作成の対象ではないユーザの行をすべて削除します。

Connection 1.x to 2.x Migration Import ツールを使用したユーザデータとメッセージのインポート



(注) COBRAS ツールを使用してデータをエクスポートした場合、データとメッセージのインポートについては、COBRAS のヘルプ (<http://www.ciscounitytools.com/Applications/COBRAS/Help/COBRAS.htm>) を参照してください。

ユーザデータとメッセージの両方をエクスポートした場合は、ユーザデータ、メッセージの順にインポートする必要があります。

ユーザデータを Cisco Unity Connection 7.x にインポートする場合、Migrate Users コーティリティでは、パスワードが Connection クレデンシャルポリシーのパスワード要件を満たすかどうかは確認されません。ユーザが Connection 7.x に電話で初めてログオンする場合、または Web ツールに初めてログオンする場合は、パスワードを変更するように求められます。クレデンシャルポリシーによってパスワード要件が適用されます。インポートするユーザデータに空白パスワードが含まれている場合、その新しいユーザアカウントは、選択されたテンプレートのデフォルトパスワードを使用して作成されます。

この項では、ユーザデータをインポートする手順と、メッセージをインポートする手順の 2 つを示します。

ユーザデータを Connection 7.x システムにインポートする

- ステップ 1** Cisco Unity Connection の管理で、[ツール (Tools)]、[移行ユーティリティ (Migration Utilities)] の順に展開し、[ユーザの移行 (Migrate Users)] をクリックします。
- ステップ 2** [サーバ名または IP アドレス (Server Name or IP Address)] フィールドに、Connection 1.x のユーザデータをコピーした SSH サーバの名前または IP アドレスを入力します。
- ステップ 3** [パス名 (Path Name)] フィールドに、インポートするユーザデータを含むディレクトリへのパスを入力します。

パスの形式は、そのディレクトリへのアクセスが SSH サーバアプリケーションでどのように設定されているかによって異なります。
- ステップ 4** [ユーザ名 (User Name)] フィールドと [パスワード (Password)] フィールドに、データをエクスポートしたサーバとファイルにアクセスする権限を持っているアカウントのアカウント名とパスワードを入力します。
- ステップ 5** [ユーザテンプレート (User Template)] で、テンプレートを選択します。このテンプレートの設定が、インポートしたデータを使用して作成されるすべてのユーザに適用されます。
- ステップ 6** [失敗したオブジェクトのファイル名 (Failed Objects Filename)] フィールドに、ログファイルのファイル名を入力します。Connection は、ここで指定するファイルに、データをインポートできなかったユーザに関する情報を保存します。

ステップ7 [送信 (Submit)] をクリックします。

インポートが完了すると、[ステータス (Status)] に「一括管理ツールが完了しました。(Bulk Administration Tool completed)」というメッセージと、インポート プロセスが成功したユーザ数と失敗したユーザ数が表示されます。

ステップ8 ユーザのインポートが1つでも失敗した場合は、**ステップ6** で指定したファイルを調べ、作成できなかったユーザアカウントについて確認し、必要に応じてエラーを修正します。

Connection のすべてのバージョンに共通するアカウント (たとえば、Operator や UndeliverableMessagesMailbox) のエラーは無視してかまいません。

インポートに失敗したアカウントがごく少数の場合は、欠落しているアカウントを Cisco Unity Connection の管理で手動で作成した方が早く作業が完了する場合があります。

**注意**

アカウントを手動で作成し、Connection 1.x からエクスポートしたメッセージをインポートする場合、各アカウントに割り当てるエイリアスおよび SMTP アドレスは、対応する Connection 1.x のアカウントと同じものにする必要があります。新しいアカウントのエイリアスまたは SMTP アドレスが異なると、Connection 7.x は、インポートしたメッセージを新しいアカウントに関連付けることができません。

ステップ9 次の手順に従って、インポートできなかったユーザデータを修正し、必要に応じて再度インポートします。

- a. ログ ファイルをローカル コンピュータに保存します。このファイルは、**ステップ6** の [失敗したオブジェクトのファイル名 (Failed Objects Filename)] フィールドで指定したものです。このファイルには、インポートできなかったユーザの行だけが含まれています。
- b. ログ ファイル内のデータを修正します。
- c. ログ ファイルの名前を、インポート元の CSV ファイルの名前である CUCMigrationOutput.csv に変更します。
- d. 名前を変更したログ ファイルを、インポート元の CSV ファイルを含むディレクトリにコピーします。この場合、元の CSV ファイルは上書きされます。
- e. **ステップ2** ~ **ステップ8** を繰り返して、すべてのアカウントを正常にインポートします。

**注意**

ユーザデータと共にメッセージをエクスポートした場合は、すべてのユーザアカウントを正常に作成してから、メッセージをインポートする必要があります。この順序に従わないと、メッセージのインポートが失敗します。

ステップ10 複数の CSV ファイルを作成して、インポート時に複数のテンプレートを使用できるようにした場合は、P.2-11 の「複数のテンプレートを使用してユーザアカウントを作成するための複数の CSV ファイルを準備する」で作成した残りの CSV ファイルそれぞれについて、**ステップ2** ~ **ステップ8** を繰り返します。

メッセージを Connection 7.x システムにインポートする

ステップ 1 Cisco Unity Connection の管理で、[ツール (Tools)]、[移行ユーティリティ (Migration Utilities)] の順に展開し、[メッセージの移行 (Migrate Messages)] をクリックします。

ステップ 2 [サーバ名または IP アドレス (Server Name or IP Address)] フィールドに、Connection 1.x のユーザデータとメッセージをエクスポートした SSH サーバの名前または IP アドレスを入力します。

ステップ 3 [パス名 (Path Name)] フィールドに、インポートするメッセージを含むディレクトリへのパスを入力します。

パスの形式は、そのディレクトリへのアクセスについて SSH サーバ アプリケーションでどのように設定されているかによって異なります。

ステップ 4 [ユーザ名 (User Name)] フィールドと [パスワード (Password)] フィールドに、データをエクスポートしたサーバとファイルにアクセスする権限を持っているアカウントのアカウント名とパスワードを入力します。

ステップ 5 [送信 (Submit)] をクリックします。

インポートが完了すると、[ステータス (Status)] に「一括管理ツールが完了しました。(Bulk Administration Tool completed)」というメッセージと、移行されたメッセージ数が表示されます。



Cisco Unity 4.x 以降から Cisco Unity Connection 7.x への移行

この章は、次の項で構成されています。

- [Cisco Unity 4.x 以降から Connection バージョン 7.x に移行するためのツールについて \(P.3-2\)](#)
- [Cisco Unity 4.x 以降から Connection 7.x に移行するためのタスク リスト \(P.3-4\)](#)
- [メモリ増設またはハードディスク交換 \(特定のサーバのみ\) \(P.3-7\)](#)
- [複数のテンプレートを使用してユーザ アカウントを作成するための準備 \(P.3-11\)](#)
- [Cisco Unity 4.x to Connection 2.x Migration Import ツールを使用したユーザ データとメッセージのインポート \(P.3-12\)](#)

Cisco Unity 4.x 以降から Connection バージョン 7.x に移行するためのツールについて

Cisco Unity 4.x 以降のシステムから Connection 7.x にユーザ データとオプションのボイス メッセージを移行するには、次の各項で説明するツールのいずれかを使用して、Cisco Unity システムからデータとメッセージをエクスポートする必要があります。

- [Cisco Unity 4.x to Connection 2.x Migration Export ツール](#)
- [COBRAS \(Cisco Objected Backup and Restore Application Suite \)](#)

Cisco Unity 4.x to Connection 2.x Migration Export ツール



(注)

Migration Export ツールを Connection バージョン 7.x 用に更新する必要はありません。ツール名に Connection 2.x が含まれていますが、7.x への移行エクスポートは正常に行われます。また、ツール名に含まれる Cisco Unity のバージョンが 4.x だけになっていますが、バージョン 5.x および 7.x からのエクスポートも正常に行われます。

このツールには次の利点があります。

- Cisco TAC でサポートされている。
- Cisco Unity バージョン 4.0(1) ~ 4.0(4) からデータをエクスポートできる。
- COBRAS (Cisco Objected Backup and Restore Application Suite) の使用時に問題が発生した場合に予備の移行手段として使用できる。

一方、このツールには次の欠点もあります。

- エクスポートできるデータが COBRAS よりも少ない。Cisco Unity 4.x to Connection 2.x Migration Export ツールによってエクスポートされるデータの詳細については、<http://www.ciscounitytools.com/HelpFiles/CUC/CUCMigrationExport/UnityToConnectionMigrationExport.htm> にあるツールのヘルプを参照してください。
- Cisco Unity 4.x 以降のデータとメッセージをインポートするには、Secure Shell (SSH; セキュアシェル) サーバ アプリケーションを実行するサーバが必要になる。SSH サーバ アプリケーションの設定作業は、複雑で時間がかかる場合があります。

Migration Export ツールは、http://www.ciscounitytools.com/App_CUCMigrationExport.htm から入手可能です。



(注)

COBRAS が Cisco TAC でサポートされるようになった時点では、Cisco Unity 4.0(5) 以降を実行しているシステムで Cisco Unity データをエクスポートするときに Cisco Unity 4.x to Connection 2.x Migration Export ツールを使用する必要はありません。このエクスポート ツールは、予備的な手段とすることをお勧めします。

COBRAS (Cisco Objected Backup and Restore Application Suite)

このツールには次の利点があります。

- エクスポートできるデータが Cisco Unity 4.x to Connection 2.x Migration Export ツールよりも多い。詳細については、<http://www.ciscounitytools.com/Applications/COBRAS/Help/COBRAS.htm> にある COBRAS のヘルプを参照してください。
- セキュア シェル (SSH) サーバ アプリケーションを実行するサーバが不要になる。

一方、このツールには次の欠点もあります。

- データのエクスポート元が Cisco Unity 4.0(5) 以降に限られる。
- このマニュアルが最初に発行された時点で、COBRAS はテストが完了していないため、Cisco TAC でサポートされていない。現在サポートされているかどうかを確認するには、http://www.ciscounitytools.com/App_COBRAS.htm の Cisco Unity Tools Web サイトにある COBRAS のページを参照してください。

COBRAS は、http://www.ciscounitytools.com/App_COBRAS.htm から入手可能です。

Cisco Unity 4.x 以降から Connection 7.x に移行するためのタスク リスト

Connection 7.x に正しく移行するには、次の大まかなタスク リストに従います。タスクでは、このマニュアルや他の Connection マニュアル内の詳細な手順を参照しています。その手順に従って正しく移行してください。

1. 新しいサーバを設置するのではなく、現在の Cisco Unity サーバを再利用する場合は、『Cisco Unity Connection サポート対象プラットフォーム』を参照し、サーバでハードディスクの交換または RAM の増設が必要かどうかを確認してください。『Cisco Unity Connection サポート対象プラットフォーム』は、http://www.cisco.com/en/US/products/ps6509/products_data_sheets_list.html から入手可能です。
2. Cisco Unity Connection 7.x のライセンス ファイルを取得します。この段階ではファイルをインストールしないでください。インストールは、後の移行プロセスで行います。http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/7x/administration/guide/7xcucsagx.html にある『Cisco Unity Connection システムアドミニストレーションガイド Release 7.x』の「[ライセンスの管理](#)」の章を参照してください。



(注) Connection クラスタを設定する場合は、ライセンスをパブリッシャ サーバとサブスクライバサーバにインストールする必要があります。

3. http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/7x/requirements/7xcucsysreqs.html にある『Cisco Unity Connection 7.x システム要件』の「Cisco Unity 4.x 以降から Cisco Unity Connection バージョン 7.x への移行の要件」の項を参照してください。
4. Cisco Unity Connection の出荷されているバージョンの詳細については、該当するバージョンの『Cisco Unity Connection リリースノート』を参照してください。特に、「インストールとアップグレードに関する情報」の項の情報に注意してください。リリース ノートは、http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/7x/release/notes/701cucrn.html から入手可能です。
5. Cisco Unity サーバがバージョン 4.0(1) ~ 4.0(4) のいずれかを実行している場合に推奨されるオプション タスク : Cisco Unity 4.0(5) 以降にアップグレードするためのソフトウェアをダウンロードします。詳細については、http://www.cisco.com/en/US/products/sw/voicew/ps2237/prod_release_notes_list.html で、該当するリリース ノートにあるソフトウェアのダウンロードに関する項を参照してください。

COBRAS は、Cisco Unity から大量のデータをエクスポートできるため推奨ツールに指定されていますが、動作対象が Cisco Unity 4.0(5) 以降に限られています。COBRAS を使用して節約できる時間は、Cisco Unity のアップグレードに要する時間を大幅に上回ります。

6. 次のツールをダウンロードします。
 - Cisco Unity Disaster Recovery Tool。このツールは、http://www.ciscounitytools.com/App_DisasterRecoveryTools.htm から入手可能です。
 - Cisco Unity サーバが現在バージョン 4.0(5) 以降を実行している場合、または移行時にサーバをバージョン 4.0(5) 以降にアップグレードする場合は、COBRAS。このツールは、http://www.ciscounitytools.com/App_COBRAS.htm から入手可能です。COBRAS が現在 Cisco TAC でサポートされているかどうかを確認してください。
 - Cisco Unity 4.x 以降の場合、Cisco Unity 4.x to Connection 2.x Migration Export ツール。このツールは、http://www.ciscounitytools.com/App_CUCMigrationExport.htm から入手可能です。



(注) COBRAS が Cisco TAC でサポートされるようになった時点では、Cisco Unity 4.0(5) 以降を実行しているシステムで Cisco Unity データをエクスポートするときに Cisco Unity 4.x to Connection 2.x Migration Export ツールを使用する必要はありません。このエクスポート ツールは、予備的な手段とすることをお勧めします。

7. ステップ 6. でダウンロードしたツールをインストールします。
8. Cisco Unity Disaster Recovery Tool を使用して、サーバをバックアップします。このバックアップは、Connection 7.x システム上でデータを復元するために使用するものではありません。必要に応じて Cisco Unity に戻す場合にのみ使用することをお勧めします。
9. Cisco Unity 4.0(1) ~ 4.0(4) (Cisco Unity 4.x to Connection 2.x Migration Export ツールではサポートされているが COBRAS ではサポートされていない) のいずれかを使用しており、COBRAS を使用するための Cisco Unity 4.0(5) 以降へのアップグレードを実行せず、Cisco Unity サーバにアクセス可能なサーバにセキュアシェル (SSH) サーバアプリケーションがまだインストールされていない場合 : SSH サーバ アプリケーションをインストールします。Cisco Unity のデータを Connection 7.x にインポートする移行ツールは、エクスポートされたユーザ データとメッセージにアクセスするときに SSH を使用します。



(注) テストは OpenSSH for Windows のみで行っています。他の SSH アプリケーションについては、移行時の問題点がお客様より報告されています。

10. Cisco Unity 4.x to Connection 2.x Migration Export ツールを使用して、Cisco Unity のデータとメッセージをエクスポートします。ただし、Cisco Unity サーバが現在 Cisco Unity 4.0(5) 以降を実行している場合、または移行時にバージョン 4.0(5) 以降にアップグレードする場合、このツールでエクスポートしたデータを使用するのは、COBRAS の使用時に何らかの理由で障害が発生した場合に限られます。詳細については、<http://www.ciscounitytools.com/HelpFiles/CUC/CUCMigrationExport/UnityToConnectionMigrationExport.htm> にあるツールのヘルプを参照してください。

Cisco Unity サーバにアクセス可能なサーバにセキュアシェル (SSH) サーバアプリケーションがインストールされている場合は、その SSH サーバにエクスポートします。SSH サーバがない場合は、任意のネットワーク ロケーションにデータをエクスポートします。必要に応じて、後で SSH サーバをセットアップします。

11. 推奨されるオプション タスク : Cisco Unity サーバがバージョン 4.0(1) ~ 4.0(4) のいずれかを実行している場合は、Cisco Unity 4.0(5) 以降にアップグレードします。詳細については、次のマニュアルを参照してください。
 - http://www.cisco.com/en/US/products/sw/voicew/ps2237/prod_release_notes_list.html にある該当するバージョンの Cisco Unity のリリース ノート。
 - http://www.cisco.com/en/US/products/sw/voicew/ps2237/prod_installation_guides_list.html にある該当する『リコンフィギュレーション アップグレード ガイド』内のアップグレードに関する適切な章。

万一、アップグレードに失敗した場合は、アップグレードのトラブルシューティングを行うか、Cisco Unity 4.x to Connection 2.x Migration Export ツールを使用して Cisco Unity からエクスポートしたデータを使用します。

12. Cisco Unity サーバがバージョン 4.0(5) 以降を実行している場合 : COBRAS を使用して Cisco Unity のデータとメッセージをエクスポートします。詳細については、<http://www.ciscounitytools.com/Applications/COBRAS/Help/COBRAS.htm> にあるツールのヘルプを参照してください。
13. メモリの増設またはハードディスクの交換が必要な場合 : その作業を行います。P.3-7 の「メモリ増設またはハードディスク交換 (特定のサーバのみ)」を参照してください。

14. Connection 7.x をインストールし、設定を開始します。
http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/7x/installation/guide/7xcucigx.html にある『Cisco Unity Connection インストレーション ガイド Release 7.x』の「Cisco Unity Connection 7.x システムのインストールに必要なタスクの概要」の章で、「Cisco Unity Connection 7.x システム (Connection クラスタなし) インストール用タスク リスト」のパート 1 ~ パート 3 を参照してください。
15. COBRAS を使用してデータとメッセージをエクスポートした場合は、COBRAS のヘルプと、『Cisco Unity Connection インストレーション ガイド Release 7.x』の「Cisco Unity Connection 7.x システムのインストールに必要なタスクの概要」の章にある「Cisco Unity Connection 7.x システム (Connection クラスタなし) インストール用タスク リスト」の「パート 4: システムへのユーザ データと通話管理データの入力」を参照してください。

Connection 1.x to 2.x Migration Export ツールを使用してデータのみをエクスポートした場合は、次を参照してください。
 - 『Cisco Unity Connection インストレーション ガイド Release 7.x』の「Cisco Unity Connection 7.x システムのインストールに必要なタスクの概要」の章にある「Cisco Unity Connection 7.x システム (Connection クラスタなし) インストール用タスク リスト」の「パート 4: システムへのユーザ データと通話管理データの入力」
 - 複数のテンプレートを使用してユーザ アカウントを作成するための準備 (P.3-11)
 - Cisco Unity 4.x to Connection 2.x Migration Import ツールを使用したユーザ データとメッセージのインポート (P.3-12)
16. Connection 7.x の設定を完了します。『Cisco Unity Connection インストレーション ガイド Release 7.x』の「Cisco Unity Connection 7.x システムのインストールに必要なタスクの概要」の章にある「Cisco Unity Connection 7.x システム (Connection クラスタなし) インストール用タスク リスト」のパート 5 ~ パート 9 を参照してください。

メモリ増設またはハードディスク交換（特定のサーバのみ）



(注) アップグレードするサーバでメモリ増設もハードディスク交換も必要ない場合は、この項を省略してください。

Cisco Unity Connection の使用に適したサーバにするには、次の作業が必要になる場合があります。

- 任意の構成で Connection 7.x を実行するためのメモリ増設
- 音声認識とデジタル ネットワーキングの両方が設定されている場合に、指定された数の Connection ユーザをサポートするためのメモリ増設
- Connection クラスタをサポートするためのハードディスク交換

http://www.cisco.com/en/US/products/ps6509/products_data_sheets_list.html にある『Cisco Unity Connection サポート対象プラットフォーム』で、該当するサーバ固有の表を参照してください。



警告

オン/オフスイッチのあるシステムで作業を始める場合は、はじめに電源スイッチをオフにし、電源コードのプラグを抜いてください。ステートメント 1



警告

シャーシを開ける前に、TNV (Telephone Network Voltage; 電話網電圧) に接触しないように電話網ケーブルの接続を切ります。ステートメント 2



警告

この装置の設置およびメンテナンス作業は、AS/NZS 3260 の 1.2.14.3 条に定義されているサービス要員が行う必要があります。ステートメント 88



警告

この手順を行う際には、ESD によるカードの損傷を防ぐため、静電気防止用リストストラップを着用してください。電気ショックを防ぐために、装置の背面を直接手や金属で触らないようにします。ステートメント 94



警告

この製品には安全カバーが不可欠です。安全カバーを設置していない装置は操作しないでください。安全カバーが正しく設置されていない装置を扱うと、安全認可が無効になり、火災や電気による事故を引き起こす恐れがあります。ステートメント 117



警告

雷が発生しているときは、システムに手を加えたり、ケーブルの接続や取り外しを行わないでください。ステートメント 1001

■ メモリ増設またはハードディスク交換 (特定のサーバのみ)

**警告**

必ず設置手順を読んでから、システムを電源に接続してください。ステートメント 1004

**警告**

この装置をラックに設置したり保守作業を行ったりするときは、人身事故を防ぐため、システムが安定しているかどうかを十分に確認する必要があります。次の注意事項に従ってください。

- ラックにこの装置を単独で設置する場合は、ラックの一番下に設置します。
- ラックに別の装置がすでに設置されている場合は、最も重量のある装置を一番下にして、重い順に下から上へ設置します。
- ラックに安定器具が付属している場合は、その安定器具を取り付けてから、装置をラックに設置するか、またはラック内の装置の保守作業を行ってください。ステートメント 1006

**警告**

不適切なバッテリーに交換すると、爆発の危険性があります。製造元が推奨するものと同じまたは同等のバッテリーだけを使用してください。使用済みバッテリーは、製造元が指示する方法に従って処分してください。ステートメント 1015

**警告**

この装置は立ち入り制限区域内に設置することが前提になっています。立ち入り制限区域とは、鍵、錠、またはその他の保全手段を使用しないと立ち入ることができない区域です。ステートメント 1017

**警告**

感電事故を防ぐため、Safety Extra-low Voltage (SELV) 回路を Telephone-Network Voltage (TNV; 電話網電圧) 回路に接続しないでください。LAN ポートには SELV 回路、WAN ポートには TNV 回路が使用されています。LAN ポートおよび WAN ポートによっては、どちらも RJ-45 コネクタが使用されている場合があります。ケーブルを接続するときは注意してください。ステートメント 1021

**警告**

火災の危険性を抑えるため、No. 26 AWG 以上の通信回線コードだけを使用してください。ステートメント 1023

**警告**

この装置はアース接続する必要があります。アース導体を破損しないよう注意し、アース導体を正しく取り付けないまま装置を稼働させないでください。アース接続が適正であるかどうかわからない場合には、電気検査機関または電気技術者に相談してください。ステートメント 1024

**警告**

ブランクの前面プレートおよびカバー パネルは、3つの重要な役割を果たします。シャーシ内部の危険な電圧および電流に接触しないように防御の役割を果たします。他の機器に悪影響を与える EMI（電磁干渉）を外に出しません。さらに、シャーシ全体に冷却用の空気を流します。カード、前面プレート、前面カバー、および背面カバーがすべて取り付けられてから、システムを稼働させてください。ステートメント 1029

**警告**

この装置の設置、交換、保守は、訓練を受けた相応の資格のある人が行ってください。ステートメント 1030

**警告**

この製品を廃棄処分する際は、各国の法律および規制に従って取り扱ってください。ステートメント 1040

上記の安全上の警告の各国語版については、

http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/regulatory/compliance/ucwarns.html にある『*Regulatory Compliance and Safety Information for Cisco Unity Connection*』を参照してください。

メモリを増設する、またはハードディスクを交換する（特定のサーバのみ）

ステップ 1 カバーを取り外します。

ステップ 2 メモリを増設しない場合は、**ステップ 3** に進みます。

サーバモデルに応じて、メモリ モジュールを適切なスロットまたは場所に取り付けます。詳細については、http://www.cisco.com/en/US/products/ps6509/products_data_sheets_list.html にある『*Cisco Unity Connection サポート対象プラットフォーム*』を参照してください。

**注意**

新しいメモリ モジュールを誤ったスロットに取り付けると、サーバとオペレーティングシステムがそのモジュールを認識しない場合や、Cisco Unity Connection のパフォーマンスが低下する場合があります。

ステップ 3 ハードディスクを交換しない場合は、**ステップ 4** に進みます。

**注意**

既存のハードディスクを取り外し、それと同じ台数のハードディスクを取り付ける必要があります。台数が異なると、Cisco Unity Connection のインストールが失敗します。

次の手順に従って、ハードディスクを交換します。

- a. サーバにおけるハードディスクの現在の場所（ハードディスクとハードディスク スロットの対応関係も含む）を書き留めます。交換時に障害が発生して現在の構成に戻す必要が生じた場合に、既存のハードディスクを現在の場所に戻す必要があるためです。
- b. サーバからドライブトレイを取り外します。

■ メモリ増設またはハードディスク交換 (特定のサーバのみ)

- c. ドライブトレイから古いハードディスクを取り外します。
- d. 新しいハードディスクをドライブトレイに装着します。
- e. ステップ a. で書き留めた場所にドライブトレイを再度取り付けます。

ステップ 4 カバーを再度取り付けます。

複数のテンプレートを使用してユーザアカウントを作成するための準備

Cisco Unity 4.x からユーザデータをエクスポートするユーティリティでは、全ユーザのデータを含む CSV ファイルが 1 つ作成されます。一方、Connection 7.x にデータをインポートするユーティリティでは、CSV ファイル 1 つごとに 1 つのテンプレートを使用して新しいユーザアカウントが作成されます。ユーザアカウントを作成するときに複数のテンプレートを使用する場合は、1 つの CSV ファイルをテンプレートと同じ数の CSV ファイルに分割すると便利です（テンプレートへのユーザの割り振り方によっては、1 つのテンプレートを使用してすべてのユーザアカウントを作成してから、ユーザ設定を個別に変更した方が早く作業が完了する場合があります）。

複数のテンプレートを使用してユーザアカウントを作成するための複数の CSV ファイルを準備する

-
- ステップ 1** Cisco Unity 4.x のデータをエクスポートした場所に、使用するテンプレートごとにサブディレクトリを作成します。各サブディレクトリには、対応するテンプレートと同じ名前を付けます。
- ステップ 2** CSV ファイルを各サブディレクトリにコピーします。ファイル名は、元の CSV ファイルと同じにします。ファイル名が異なると、インポートが失敗します。
- ステップ 3** Cisco Unity 4.x のデータをエクスポートした場所にあるすべての録音名 WAV ファイルを、[ステップ 1](#) で作成した各サブディレクトリにコピーします。ファイル名の形式は、<user_alias>_VOICE_NAME.wav です。

CSV ファイルからユーザデータをインポートすると、対応する録音名 WAV ファイルもインポートされます。インポートユーティリティがこのファイルを検索する場所は、インポート元の CSV ファイルを含むディレクトリに限られます。

- ステップ 4** 各サブディレクトリ内の CSV ファイルを開き、対応するテンプレートを使用したインポートの対象ではないユーザの行を削除します。

たとえば、SalesStaffTemplate ディレクトリ内の CSV ファイルを編集する場合は、SalesStaffTemplate を使用したアカウント作成の対象ではないユーザの行をすべて削除します。

Cisco Unity 4.x to Connection 2.x Migration Import ツールを使用したユーザ データとメッセージのインポート



(注)

COBRAS ツールを使用してデータをエクスポートした場合、データとメッセージのインポートについては、COBRAS のヘルプ (<http://www.ciscounitytools.com/Applications/COBRAS/Help/COBRAS.htm>) を参照してください。

ユーザ データとメッセージの両方をエクスポートした場合は、ユーザ データ、メッセージの順にインポートする必要があります。



注意

Cisco Unity Web アプリケーションのパスワードは、Active Directory に格納されているためエクスポートできません。データをインポートして新しいユーザ アカウントを作成すると、すべてのアカウントに同じパスワードが割り当てられます。このパスワードは、データのインポート時に指定するテンプレートに含まれているものです。

ユーザ データを Cisco Unity Connection 7.x にインポートする場合、Migrate Users ユーティリティでは、パスワードが Connection クレデンシャル ポリシーのパスワード要件を満たすかどうかは確認されません。ユーザが Connection 7.x に電話で初めてログオンする場合、または Web ツールに初めてログオンする場合は、パスワードを変更するように求められます。クレデンシャル ポリシーによってパスワード要件が適用されます。インポートするユーザ データに空白パスワードが含まれている場合、その新しいユーザ アカウントは、選択されたテンプレートのデフォルト パスワードを使用して作成されます。

この項では、ユーザ データをインポートする手順と、メッセージをインポートする手順の 2 つを示します。

ユーザ データを Connection 7.x システムにインポートする

- ステップ 1** Cisco Unity Connection の管理で、[ツール (Tools)]、[移行ユーティリティ (Migration Utilities)] の順に展開し、[ユーザの移行 (Migrate Users)] をクリックします。
- ステップ 2** [サーバ名または IP アドレス (Server Name or IP Address)] フィールドに、Cisco Unity のユーザ データをコピーした SSH サーバの名前または IP アドレスを入力します。
- ステップ 3** [パス名 (Path Name)] フィールドに、インポートするユーザ データを含むディレクトリへのパスを入力します。

パスの形式は、そのディレクトリへのアクセスが SSH サーバ アプリケーションでどのように設定されているかによって異なります。
- ステップ 4** [ユーザ名 (User Name)] フィールドと [パスワード (Password)] フィールドに、データをエクスポートしたサーバとファイルにアクセスする権限を持っているアカウントのアカウント名とパスワードを入力します。
- ステップ 5** [ユーザテンプレート (User Template)] で、テンプレートを選択します。このテンプレートの設定が、インポートしたデータを使用して作成されるすべてのユーザに適用されます。

ステップ 6 [失敗したオブジェクトのファイル名 (Failed Objects Filename)] フィールドに、ログ ファイルのファイル名を入力します。Connection は、ここで指定するファイルに、データをインポートできなかったユーザに関する情報を保存します。

ステップ 7 [送信 (Submit)] をクリックします。

インポートが完了すると、[ステータス (Status)] に「一括管理ツールが完了しました。(Bulk Administration Tool completed)」というメッセージと、インポート プロセスが成功したユーザ数と失敗したユーザ数が表示されます。

ステップ 8 ユーザのインポートが1つでも失敗した場合は、**ステップ 6** で指定したファイルを調べ、作成できなかったユーザ アカウントについて確認し、必要に応じてエラーを修正します。

Connection のすべてのバージョンに共通するアカウント (たとえば、Operator や UndeliverableMessagesMailbox) のエラーは無視してかまいません。

インポートに失敗したアカウントがごく少数の場合は、欠落しているアカウントを Cisco Unity Connection の管理で手動で作成した方が早く作業が完了する場合があります。

**注意**

アカウントを手動で作成し、Cisco Unity からエクスポートしたメッセージをインポートする場合、各アカウントに割り当てるエイリアスおよび SMTP アドレスは、対応する Cisco Unity のアカウントと同じものにする必要があります。新しいアカウントのエイリアスまたは SMTP アドレスが異なると、Connection 7.x は、インポートしたメッセージを新しいアカウントに関連付けることができません。

ステップ 9 次の手順に従って、インポートできなかったユーザデータを修正し、必要に応じて再度インポートします。

- a. ログ ファイルをローカル コンピュータに保存します。このファイルは、**ステップ 6** の [失敗したオブジェクトのファイル名 (Failed Objects Filename)] フィールドで指定したものです。このファイルには、インポートできなかったユーザの行だけが含まれています。
- b. ログ ファイル内のデータを修正します。
- c. ログ ファイルの名前を、インポート元の CSV ファイルの名前である UnityMigrationOutput.csv に変更します。
- d. 名前を変更したログ ファイルを、インポート元の CSV ファイルを含むディレクトリにコピーします。この場合、元の CSV ファイルは上書きされます。
- e. **ステップ 2 ~ ステップ 8** を繰り返して、すべてのアカウントを正常にインポートします。

**注意**

ユーザデータと共にメッセージをエクスポートした場合は、すべてのユーザ アカウントを正常に作成してから、メッセージをインポートする必要があります。この順序に従わないと、メッセージのインポートが失敗します。

ステップ 10 複数の CSV ファイルを作成して、インポート時に複数のテンプレートを使用できるようにした場合は、P.3-11 の「複数のテンプレートを使用してユーザ アカウントを作成するための複数の CSV ファイルを準備する」で作成した残りの CSV ファイルそれぞれについて、**ステップ 2 ~ ステップ 8** を繰り返します。

メッセージを Connection 7.x システムにインポートする

ステップ 1 Cisco Unity Connection の管理で、[ツール (Tools)]、[移行ユーティリティ (Migration Utilities)] の順に展開し、[メッセージの移行 (Migrate Messages)] をクリックします。

ステップ 2 [サーバ名または IP アドレス (Server Name or IP Address)] フィールドに、Cisco Unity のユーザ データとメッセージをエクスポートした SSH サーバの名前または IP アドレスを入力します。

ステップ 3 [パス名 (Path Name)] フィールドに、インポートするメッセージを含むディレクトリへのパスを入力します。

パスの形式は、そのディレクトリへのアクセスが SSH サーバ アプリケーションでどのように設定されているかによって異なります。

ステップ 4 [ユーザ名 (User Name)] フィールドと [パスワード (Password)] フィールドに、データをエクスポートしたサーバとファイルにアクセスする権限を持っているアカウントのアカウント名とパスワードを入力します。

ステップ 5 [送信 (Submit)] をクリックします。

インポートが完了すると、[ステータス (Status)] に「一括管理ツールが完了しました。(Bulk Administration Tool completed)」というメッセージと、移行されたメッセージ数が表示されます。



Cisco Unity Connection 7.x サーバの交換

この章は、次の項で構成されています。

- [Connection クラスタが設定されていない単一の 7.x サーバの交換 \(P.4-2\)](#)
- [Connection クラスタ内の 7.x パブリッシャ サーバの交換 \(P.4-3\)](#)
- [Connection クラスタ内の 7.x サブスクリバ サーバの交換 \(P.4-6\)](#)
- [Connection クラスタ内の 7.x パブリッシャ サーバおよびサブスクリバ サーバの交換 \(P.4-9\)](#)

Connection クラスタが設定されていない単一の 7.x サーバの交換

単一の Connection 7.x サーバを正しく交換するには、この項に示されている大まかなタスク リストに従います。



(注) デジタル ネットワーキングが設定されている場合も同じタスクを実行してください。代替サーバでデータを復元すると、デジタル ネットワーキングは自動的に動作を再開します。

1. Disaster Recovery System を使用して Connection サーバをバックアップします。
http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/7x/drs_administration/guide/7xcucdrsag.html にある『Disaster Recovery System アドミニストレーション ガイド for Cisco Unity Connection Release 7.x』を参照してください。
2. 新しいサーバを設置します。
http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/7x/installation/guide/7xcucigx.html にある『Cisco Unity Connection インストレーション ガイド Release 7.x』の「Cisco Unity Connection 7.x システムのインストールに必要なタスクの概要」の章で、「Cisco Unity Connection 7.x システム(Connection クラスタなし)インストール用タスク リスト」の「パート 1: Cisco Unity Connection サーバのインストールと設定」を参照してください。
3. Disaster Recovery System を使用して、新しい Connection サーバでデータを復元します。
http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/7x/drs_administration/guide/7xcucdrsag.html にある『Disaster Recovery System アドミニストレーション ガイド for Cisco Unity Connection Release 7.x』を参照してください。
4. 古いサーバをネットワークから切断します。

Connection クラスタ内の 7.x パブリッシャ サーバの交換

Connection クラスタ内のパブリッシャ サーバを交換する場合、サブスライバ サーバを交換する必要はありません。パブリッシャ サーバが動作していない間は、サブスライバ サーバがすべての機能を処理します。Connection クラスタを設定して、サブスライバ サーバを Connection クラスタに再接続すると、サブスライバは自身のデータを代替パブリッシャ サーバに複製します。代替パブリッシャ サーバは、Primary または Secondary ステータスになると通話の処理を開始します。

この項にある 6 つの手順を順番に実行します。



注意

デジタル ネットワーキングを使用している場合は、無効にしてからこの項の手順を実行する必要があります。無効にする手順については、http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/7x/administration/guide/7xcucsagx.html にある『Cisco Unity Connection システムアドミニストレーションガイド Release 7.x』の「デジタル ネットワークの使用法」の章を参照してください。

サブスライバ サーバを Primary ステータスに手動で変更する

- ステップ 1** Cisco Unity Connection Serviceability にログオンします。
- ステップ 2** [Tools] メニューで、[Cluster Management] をクリックします。
- ステップ 3** [Cluster Management] ページの [Server Manager] で、サブスライバ サーバを見つけます。
- ステップ 4** サブスライバ サーバが Primary ステータスになっている場合は、この手順を中断し、次の手順に進みます。

サブスライバ サーバが Secondary ステータスになっている場合は、[ステップ 5](#) に進みます。

サブスライバが Deactivated ステータスになっている場合は、次の手順に従って、ステータスを Secondary に変更します。

- a. サブスライバ サーバの [Change Server Status] カラムにある [Activate] をクリックします。
- b. サーバステータスを変更することを確認するメッセージが表示されたら、[OK] をクリックします。
- c. [Server Status] カラムで、サブスライバ サーバが Secondary ステータスになったことを確認します。

- ステップ 5** サブスライバ サーバの [Change Server Status] カラムにある [Make Primary] をクリックします。

- ステップ 6** サーバステータスを変更することを確認するメッセージが表示されたら、[OK] をクリックします。

変更が完了すると、[Server Status] カラムに変更後のステータスが表示されます。



(注) パブリッシャ サーバは Secondary ステータスに自動的に変更されます。

パブリッシャ サーバを Secondary ステータスから Deactivated ステータスに手動で変更する

- ステップ 1** Real-Time Monitoring Tool (RTMT) にログオンします。
- ステップ 2** [Cisco Unity Connection]メニューで、[Port Monitor]をクリックします。右ペインに[Port Monitor] ツールが表示されます。
- ステップ 3** [Node] フィールドで、パブリッシャ サーバをクリックします。
- ステップ 4** 右ペインで、[Start Polling] をクリックします。
- ステップ 5** サーバで現在通話を処理しているボイス メッセージ ポートがあるかどうかを確認します。
- ステップ 6** Cisco Unity Connection Serviceability の [Cluster Management] ページに戻ります。
- ステップ 7** パブリッシャ サーバで現在通話を処理しているボイス メッセージ ポートがない場合は、[ステップ 8](#)に進みます。
- パブリッシャ サーバで現在通話を処理しているボイス メッセージ ポートがある場合は、[Cluster Management] ページの [Change Port Status] で、パブリッシャ サーバの [Stop Taking Calls] をクリックします。RTMT にパブリッシャ サーバのすべてのポートがアイドル状態として示されるまで、待機します。
- ステップ 8** [Server Manager] で、パブリッシャ サーバの [Change Server Status] カラムにある [Deactivate] をクリックします。
- ステップ 9** サーバステータスを変更することを確認するメッセージが表示されたら、[OK]をクリックします。
- 変更が完了すると、[Server Status] カラムに変更後のサーバステータスが表示されます。
-

パブリッシャ サーバを環境から削除する

- ステップ 1** パブリッシャ サーバをシャットダウンします。
- [Cluster Management] ページの [Server Status] カラムに、パブリッシャ サーバが Not Functioning ステータスになったことが示されます。
- ステップ 2** パブリッシャ サーバからネットワーク ケーブルを取り外します。
- これで、パブリッシャ サーバを環境から削除できる状態になりました。
-

代替パブリッシャ サーバを設置する

http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/7x/installation/guide/7xcucigx.html にある『Cisco Unity Connection インストレーションガイド Release 7.x』の「Cisco Unity Connection 7.x システムのインストールに必要なタスクの概要」の章で、「Cisco Unity Connection 7.x システム(Connection クラスタなし) インストール用タスク リスト」の「パート 1 : Cisco Unity Connection サーバのインストールと設定」の手順に従います。



注意 両方の Connection サーバには、同じバージョンのソフトウェアおよび ES をインストールする必要があります。これを行わないと、Connection クラスタが正しく動作しない場合があります。

代替パブリッシャ サーバでクラスタを設定する

- ステップ 1** パブリッシャ サーバで Cisco Unity Connection の管理にログオンします。
- ステップ 2** Cisco Unity Connection の管理で、[システム設定 (System Settings)] を展開し、[クラスタ (Cluster)] をクリックします。
- ステップ 3** [サーバの検索と一覧表示 (Find and List Servers)] ページで、[新規追加 (Add New)] をクリックします。
- ステップ 4** 「サーバの設定の新規作成」ページの [ホスト名 / IP アドレス (Host Name / IP Address)] フィールドに、サブスクリバサーバのホスト名または IP アドレスを入力します。
- ステップ 5** [説明 (Description)] フィールドに、Server 2 など、サーバに関する説明を入力します。
- ステップ 6** [保存 (Save)] をクリックします。
- ステップ 7** Cisco Unity Connection の管理からログオフします。

サブスクリバサーバを Connection クラスタに再接続する

- ステップ 1** サブスクリバサーバを Connection クラスタに再接続するには、サブスクリバサーバで次の CLI コマンドを実行します。

```
utils cuc cluster renegotiate
```



(注) CLI コマンドが完了すると、パブリッシャ サーバが自動的に再起動します。

- ステップ 2** サブスクリバサーバで次の CLI コマンドを実行して、Connection クラスタが設定されていることを確認します。

```
show cuc cluster status
```

Connection クラスタ内の 7.x サブスクリバサーバの交換

Connection クラスタ内のサブスクリバサーバを交換する場合、パブリッシャサーバを交換する必要はありません。サブスクリバサーバが動作していない間は、パブリッシャサーバがすべての機能を処理します。Connection クラスタを設定すると、パブリッシャサーバは自身のデータを代替サブスクリバサーバに複製します。代替サブスクリバサーバは、Primary または Secondary ステータスになると通話の処理を開始します。

この項にある 6 つの手順を順番に実行します。



注意

デジタル ネットワーキングを使用している場合は、無効にしてからこの項の手順を実行する必要があります。無効にする手順については、http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/7x/administration/guide/7xcucsagx.html にある『Cisco Unity Connection システムアドミニストレーションガイド Release 7.x』の「デジタル ネットワークの使用法」の章を参照してください。

パブリッシャサーバを Primary ステータスに手動で変更する

- ステップ 1** Cisco Unity Connection Serviceability にログオンします。
- ステップ 2** [Tools] メニューで、[Cluster Management] をクリックします。
- ステップ 3** [Cluster Management] ページの [Server Manager] で、パブリッシャサーバを見つけます。
- ステップ 4** パブリッシャサーバが Primary ステータスになっている場合は、この手順を中断し、次の手順に進みます。

パブリッシャサーバが Secondary ステータスになっている場合は、[ステップ 5](#) に進みます。

パブリッシャが Deactivated ステータスになっている場合は、次の手順に従って、ステータスを Secondary に変更します。

- a. パブリッシャサーバの [Change Server Status] カラムにある [Activate] をクリックします。
- b. サーバステータスを変更するメッセージが表示されたら、[OK] をクリックします。
- c. [Server Status] カラムで、パブリッシャサーバが Secondary ステータスになったことを確認します。

ステップ 5 パブリッシャサーバの [Change Server Status] カラムにある [Make Primary] をクリックします。

ステップ 6 サーバステータスを変更するメッセージが表示されたら、[OK] をクリックします。

変更が完了すると、[Server Status] カラムに変更後のステータスが表示されます。



(注) サブスクリバサーバは Secondary ステータスに自動的に変更されます。

サブスクリバサーバを Secondary ステータスから Deactivated ステータスに手動で変更する

-
- ステップ 1** Real-Time Monitoring Tool (RTMT) にログオンします。
- ステップ 2** [Cisco Unity Connection] メニューで、[Port Monitor] をクリックします。右ペインに [Port Monitor] ツールが表示されます。
- ステップ 3** [Node] フィールドで、サブスクリバサーバをクリックします。
- ステップ 4** 右ペインで、[Start Polling] をクリックします。
- ステップ 5** サーバで現在通話を処理しているボイス メッセージ ポートがあるかどうかを確認します。
- ステップ 6** Cisco Unity Connection Serviceability の [Cluster Management] ページに戻ります。
- ステップ 7** サーバで現在通話を処理しているボイス メッセージ ポートがない場合は、[ステップ 8](#)に進みます。
- サブスクリバサーバで現在通話を処理しているボイス メッセージ ポートがある場合は、[Cluster Management] ページの [Change Port Status] で、サブスクリバサーバの [Stop Taking Calls] をクリックします。RTMT にサーバのすべてのポートがアイドル状態として示されるまで、待機します。
- ステップ 8** [Server Manager] で、サブスクリバサーバの [Change Server Status] カラムにある [Deactivate] をクリックします。
- ステップ 9** サーバステータスを変更することを確認するメッセージが表示されたら、[OK] をクリックします。
- 変更が完了すると、[Server Status] カラムに変更後のサーバステータスが表示されます。
-

サブスクリバサーバを環境から削除する

-
- ステップ 1** サブスクリバサーバをシャットダウンします。
- [Cluster Management] ページの [Server Status] カラムに、サブスクリバサーバが Not Functioning ステータスになったことが示されます。
- ステップ 2** サブスクリバサーバからネットワーク ケーブルを取り外します。
- これで、サブスクリバサーバを環境から削除できる状態になりました。
-

サブスクリバサーバを削除し、代替サブスクリバサーバを Connection クラスタに追加する

-
- ステップ 1** 代替サブスクリバサーバに、削除するサブスクリバサーバと同じホスト名または IP アドレスを設定する場合は、この手順を中断し、次の手順に進みます。
- 代替サブスクリバサーバに別のホスト名または IP アドレスを設定する場合は、パブリッシャサーバで Cisco Unity Connection の管理にログオンします。

- ステップ 2** Cisco Unity Connection の管理で、[システム設定 (System Settings)] を展開し、[クラスタ (Cluster)] をクリックします。
- ステップ 3** [サーバの検索と一覧表示 (Find and List Servers)] ページで、[検索 (Find)] をクリックして、クラスタ内のサーバをすべて表示します。
- ステップ 4** サブスクリバサーバの先頭にあるチェックボックスをオンにし、[選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックします。
- ステップ 5** サーバを削除することを確認するメッセージが表示されたら、[OK] をクリックします。
- ステップ 6** [新規追加 (Add New)] をクリックします。
- ステップ 7** 「サーバの設定の新規作成」ページの [ホスト名 / IP アドレス (Host Name / IP Address)] フィールドに、代替サーバのホスト名または IP アドレスを入力します。
- ステップ 8** [説明 (Description)] フィールドに、Server 2 など、サーバに関する説明を入力します。
- ステップ 9** [保存 (Save)] をクリックします。
- ステップ 10** Cisco Unity Connection の管理からログオフします。

代替サブスクリバサーバを設置する

http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/7x/installation/guide/7xcucigx.html にある『Cisco Unity Connection インストレーションガイド Release 7.x』の「Cisco Unity Connection 7.x システムのインストールに必要なタスクの概要」の章で、「Connection クラスタ設定済み Cisco Unity Connection 7.x システム インストール用タスク リスト」の「パート 3 : クラスタの設定、および Connection サブスクリバサーバのインストールと設定」の手順に従います。



注意 両方の Connection サーバには、同じバージョンのソフトウェアおよび ES をインストールする必要があります。これを行わないと、Connection クラスタが正しく動作しない場合があります。

Connection クラスタが設定されていることを確認する

サブスクリバサーバで次の CLI コマンドを実行して、Connection クラスタが設定されていることを確認します。

```
show cuc cluster status
```

Connection クラスタ内の 7.x パブリッシャ サーバおよびサブスクリバサーバの交換

Connection クラスタ内のパブリッシャ サーバとサブスクリバサーバの両方を交換するには、次のプロセスを段階的に実行します。サブスクリバサーバの交換中は、パブリッシャサーバがすべての機能を処理し、自身のデータを代替サブスクリバサーバに複製します。パブリッシャサーバの交換中は、サブスクリバサーバがすべての機能を処理し、自身のデータとメッセージを代替パブリッシャサーバに複製します。

この項にある 12 の手順を順番に実行します。



注意

デジタル ネットワーキングを使用している場合は、無効にしてからこの項の手順を実行する必要があります。無効にする手順については、

http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/7x/administration/guide/7xcucsagx.html にある『Cisco Unity Connection システムアドミニストレーションガイド Release 7.x』の「デジタルネットワークの使用法」の章を参照してください。

パブリッシャサーバを Primary ステータスに手動で変更する

- ステップ 1** Cisco Unity Connection Serviceability にログオンします。
- ステップ 2** [Tools] メニューで、[Cluster Management] をクリックします。
- ステップ 3** [Cluster Management] ページの [Server Manager] で、パブリッシャサーバを見つけます。
- ステップ 4** パブリッシャサーバが Primary ステータスになっている場合は、この手順を中断し、次の手順に進みます。

パブリッシャサーバが Secondary ステータスになっている場合は、[ステップ 5](#)に進みます。

パブリッシャが Deactivated ステータスになっている場合は、次の手順に従って、ステータスを Secondary に変更します。

- a. パブリッシャサーバの [Change Server Status] カラムにある [Activate] をクリックします。
- b. サーバステータスを変更することを確認するメッセージが表示されたら、[OK] をクリックします。
- c. [Server Status] カラムで、パブリッシャサーバが Secondary ステータスになったことを確認します。

- ステップ 5** パブリッシャサーバの [Change Server Status] カラムにある [Make Primary] をクリックします。

- ステップ 6** サーバステータスを変更することを確認するメッセージが表示されたら、[OK] をクリックします。

変更が完了すると、[Server Status] カラムに変更後のステータスが表示されます。



(注) サブスクリバサーバは Secondary ステータスに自動的に変更されます。

サブスクリバサーバを Secondary ステータスから Deactivated ステータスに手動で変更する

- ステップ 1** Real-Time Monitoring Tool (RTMT) にログオンします。
- ステップ 2** [Cisco Unity Connection]メニューで、[Port Monitor]をクリックします。右ペインに[Port Monitor] ツールが表示されます。
- ステップ 3** [Node] フィールドで、サブスクリバサーバをクリックします。
- ステップ 4** 右ペインで、[Start Polling] をクリックします。
- ステップ 5** サーバで現在通話を処理しているボイス メッセージ ポートがあるかどうかを確認します。
- ステップ 6** Cisco Unity Connection Serviceability の [Cluster Management] ページに戻ります。
- ステップ 7** サーバで現在通話を処理しているボイス メッセージ ポートがない場合は、[ステップ 8](#)に進みます。
- サブスクリバサーバで現在通話を処理しているボイス メッセージ ポートがある場合は、[Cluster Management] ページの [Change Port Status] で、サブスクリバサーバの [Stop Taking Calls] をクリックします。RTMT にサーバのすべてのポートがアイドル状態として示されるまで、待機します。
- ステップ 8** [Server Manager] で、サブスクリバサーバの [Change Server Status] カラムにある [Deactivate] をクリックします。
- ステップ 9** サーバステータスを変更することを確認するメッセージが表示されたら、[OK]をクリックします。
- 変更が完了すると、[Server Status] カラムに変更後のサーバステータスが表示されます。
-

サブスクリバサーバを環境から削除する

- ステップ 1** サブスクリバサーバをシャットダウンします。
- [Cluster Management] ページの [Server Status] カラムに、サブスクリバサーバが Not Functioning ステータスになったことが示されます。
- ステップ 2** サブスクリバサーバからネットワーク ケーブルを取り外します。
- これで、サブスクリバサーバを環境から削除できる状態になりました。
-

サブスクリバサーバを削除し、代替サブスクリバサーバを Connection クラスタに追加する

- ステップ 1** 代替サブスクリバサーバに、削除するサブスクリバサーバと同じホスト名または IP アドレスを設定する場合は、この手順を中断し、次の手順に進みます。
- 代替サブスクリバサーバに別のホスト名または IP アドレスを設定する場合は、パブリッシャサーバで Cisco Unity Connection の管理にログオンします。
- ステップ 2** Cisco Unity Connection の管理で、[システム設定 (System Settings)] を展開し、[クラスタ (Cluster)] をクリックします。
- ステップ 3** [サーバの検索と一覧表示 (Find and List Servers)] ページで、[検索 (Find)] をクリックして、クラスタ内のサーバをすべて表示します。
- ステップ 4** サブスクリバサーバの先頭にあるチェックボックスをオンにし、[選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックします。
- ステップ 5** サーバを削除することを確認するメッセージが表示されたら、[OK] をクリックします。
- ステップ 6** [新規追加 (Add New)] をクリックします。
- ステップ 7** 「サーバの設定の新規作成」ページの [ホスト名 / IP アドレス (Host Name/IP Address)] フィールドに、代替サーバのホスト名または IP アドレスを入力します。
- ステップ 8** [説明 (Description)] フィールドに、Server 2 など、サーバに関する説明を入力します。
- ステップ 9** [保存 (Save)] をクリックします。
- ステップ 10** Cisco Unity Connection の管理からログオフします。

代替サブスクリバサーバを設置する

http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/7x/installation/guide/7xcucigx.html にある『Cisco Unity Connection インストレーションガイド Release 7.x』の「Cisco Unity Connection 7.x システムのインストールに必要なタスクの概要」の章で、「Connection クラスタ設定済み Cisco Unity Connection 7.x システム インストール用タスク リスト」の「パート 3: クラスタの設定、および Connection サブスクリバサーバのインストールと設定」の手順に従います。



注意 両方の Connection サーバには、同じバージョンのソフトウェアおよび ES をインストールする必要があります。これを行わないと、Connection クラスタが正しく動作しない場合があります。

代替サブスクリバサーバで Connection クラスタが設定されていることを確認する

サブスクリバサーバで次の CLI コマンドを実行して、Connection クラスタが設定されていることを確認します。

```
show cuc cluster status
```

サブスクリバサーバを Primary ステータスに手動で変更する

- ステップ 1** Cisco Unity Connection Serviceability にログオンします。
- ステップ 2** [Tools] メニューで、[Cluster Management] をクリックします。
- ステップ 3** [Cluster Management] ページの [Server Manager] で、サブスクリバサーバを見つけます。
- ステップ 4** サブスクリバサーバが Primary ステータスになっている場合は、この手順を中断し、次の手順に進みます。サブスクリバサーバが Secondary ステータスになっている場合は、サブスクリバサーバの [Change Server Status] カラムにある [Make Primary] をクリックします。
- ステップ 5** サーバステータスを変更することを確認するメッセージが表示されたら、[OK] をクリックします。
変更が完了すると、[Server Status] カラムに変更後のステータスが表示されます。



(注) パブリッシャサーバは Secondary ステータスに自動的に変更されます。

パブリッシャサーバを Secondary ステータスから Deactivated ステータスに手動で変更する

- ステップ 1** Real-Time Monitoring Tool (RTMT) にログオンします。
- ステップ 2** [Cisco Unity Connection] メニューで、[Port Monitor] をクリックします。右ペインに [Port Monitor] ツールが表示されます。
- ステップ 3** [Node] フィールドで、パブリッシャサーバをクリックします。
- ステップ 4** 右ペインで、[Start Polling] をクリックします。
- ステップ 5** サーバで現在通話を処理しているボイスメッセージポートがあるかどうかを確認します。
- ステップ 6** Cisco Unity Connection Serviceability の [Cluster Management] ページに戻ります。
- ステップ 7** パブリッシャサーバで現在通話を処理しているボイスメッセージポートがない場合は、[ステップ 8](#)に進みます。

パブリッシャ サーバで現在通話を処理しているボイス メッセージ ポートがある場合は、[Cluster Management] ページの [Change Port Status] で、パブリッシャ サーバの [Stop Taking Calls] をクリックします。RTMT にパブリッシャ サーバのすべてのポートがアイドル状態として示されるまで、待機します。

ステップ 8 [Server Manager] で、パブリッシャ サーバの [Change Server Status] カラムにある [Deactivate] をクリックします。

ステップ 9 サーバステータスを変更することを確認するメッセージが表示されたら、[OK] をクリックします。

変更が完了すると、[Server Status] カラムに変更後のサーバステータスが表示されます。

パブリッシャ サーバを環境から削除する

ステップ 1 パブリッシャ サーバをシャットダウンします。

[Cluster Management] ページの [Server Status] カラムに、パブリッシャ サーバが Not Functioning ステータスになったことが示されます。

ステップ 2 パブリッシャ サーバからネットワーク ケーブルを取り外します。

これで、パブリッシャ サーバを環境から削除できる状態になりました。

代替パブリッシャ サーバを設置する

http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/7x/installation/guide/7xcucigx.html にある『Cisco Unity Connection インストレーション ガイド Release 7.x』の「Cisco Unity Connection 7.x システムのインストールに必要なタスクの概要」の章で、「Cisco Unity Connection 7.x システム(Connection クラスタなし) インストール用タスク リスト」の「パート 1 : Cisco Unity Connection サーバのインストールと設定」の手順に従います。



注意

両方の Connection サーバには、同じバージョンのソフトウェアおよび ES をインストールする必要があります。これを行わないと、Connection クラスタが正しく動作しない場合があります。

代替パブリッシャ サーバでクラスタを設定する

- ステップ 1** パブリッシャ サーバで Cisco Unity Connection の管理にログオンします。
- ステップ 2** Cisco Unity Connection の管理で、[システム設定 (System Settings)] を展開し、[クラスタ (Cluster)] をクリックします。
- ステップ 3** [サーバの検索と一覧表示 (Find and List Servers)] ページで、[新規追加 (Add New)] をクリックします。
- ステップ 4** 「サーバの設定の新規作成」ページの [ホスト名 / IP アドレス (Host Name/IP Address)] フィールドに、サブスクリバサーバのホスト名または IP アドレスを入力します。
- ステップ 5** [説明 (Description)] フィールドに、Server 2 など、サーバに関する説明を入力します。
- ステップ 6** [保存 (Save)] をクリックします。
- ステップ 7** Cisco Unity Connection の管理からログオフします。
-

サブスクリバサーバを Connection クラスタに再接続する

- ステップ 1** サブスクリバサーバを Connection クラスタに再接続するには、サブスクリバサーバで次の CLI コマンドを実行します。

```
utils cuc cluster renegotiate
```



(注) CLI コマンドが完了すると、パブリッシャ サーバが自動的に再起動します。

- ステップ 2** サブスクリバサーバで次の CLI コマンドを実行して、Connection クラスタが設定されていることを確認します。

```
show cuc cluster status
```



Cisco Unity Connection 7.x クラスタの作成または変更

この章は、次の項で構成されています。

- [Connection クラスタを作成するための 7.x サーバの追加 \(P.5-2\)](#)
- [Connection クラスタが設定されていない単一サーバへの 7.x パブリッシャ サーバの変換 \(P.5-4\)](#)

Connection クラスタを作成するための 7.x サーバの追加

単一の Connection サーバがある場合、サブスライバサーバを追加して Connection クラスタを作成することができます。

この項にある 3 つの手順を順番に実行します。

サブスライバサーバを設置する

http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/7x/installation/guide/7xcucigx.html にある『Cisco Unity Connection インストレーションガイド Release 7.x』の「Cisco Unity Connection 7.x システムのインストールに必要なタスクの概要」の章で、「Connection クラスタ設定済み Cisco Unity Connection 7.x システム インストール用タスク リスト」の「パート 3: クラスタの設定、および Connection サブスライバサーバのインストールと設定」の手順に従います。



注意 両方の Connection サーバには、同じバージョンのソフトウェアおよび ES をインストールする必要があります。これを行わないと、Connection クラスタが正しく動作しない場合があります。

Connection クラスタ用に電話システムを設定する

次に示す電話システム連動のタイプに応じて、該当するマニュアルを参照してください。

Skinny Client Control Protocol (SCCP) を介した Cisco Unified Communications Manager との連動

- a. 電話システムでサブスライバサーバへの接続ポートを追加するには、
http://www.cisco.com/en/US/products/sw/voicesw/ps556/prod_maintenance_guides_list.html で、該当する『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「Cisco ボイスメール ポート ウィザード」の章の「既存の Cisco ボイスメールサーバへのポートの追加」の項を参照してください。
- b. 応答ボイスメールポートの回線グループについて[分配アルゴリズム (Distribution Algorithm)] フィールドを [優先度順 (Top Down)] に設定するには、
http://www.cisco.com/en/US/products/sw/voicesw/ps556/prod_maintenance_guides_list.html で、該当する『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「回線グループの設定」の章の「回線グループの設定」の項を参照してください。

Skinny Client Control Protocol (SCCP) を介した Cisco Unified Communications Manager Express との連動

電話システムでサブスライバサーバへの接続ポートを追加するには、
http://www.cisco.com/en/US/products/sw/voicesw/ps4625/products_installation_and_configuration_guides_list.html にある『Cisco Unified Communications Manager Express 4.3 システム アドミニストレータガイド』の「ボイスメールの統合」の章の「ボイスメール統合の設定方法」の項を参照してください。

SIP トランクを介した Cisco Unified Communications Manager との連動

http://www.cisco.com/en/US/products/ps6509/products_installation_and_configuration_guide にある『Cisco Unified Communications Manager SIP Trunk Integration Guide for Cisco Unity Connection 7.x』の「Programming the Cisco Unified Communications Manager Phone System for Integrating with Cisco Unity Connection」の項を参照してください。

SIP トランクを介した Cisco Unified Communications Manager Express との連動

http://www.cisco.com/en/US/products/ps6509/products_installation_and_configuration_guides_list.html にある『Cisco Unified Communications Manager Express SIP Trunk Integration Guide for Cisco Unity Connection 7.x』の「Programming the Cisco Unified Communications Manager Express Phone System for Integrating with Cisco Unity Connection」の項を参照してください。

PIMG/TIMG ユニットを介した連動

http://www.cisco.com/en/US/products/ps6509/products_installation_and_configuration_guides_list.html で、該当する Cisco Unity Connection のインテグレーションガイドの「Setting Up the PIMG Units」または「Setting Up the TIMG Units」の項を参照してください。

SIP を使用したその他の連動

http://www.cisco.com/en/US/products/ps6509/products_installation_and_configuration_guides_list.html で、該当する Cisco Unity Connection のインテグレーションガイドの「Programming the <Phone System>」の項を参照してください。

クラスター用に Cisco Unity Connection を設定する

次に示す電話システム連動に応じて、該当するマニュアルを参照してください。

Cisco Unified CM と Cisco Unified CM Express の連動

パブリッシャ サーバで適切なポートグループにボイス メッセージ ポートを追加するには、http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/7x/administration/guide/7xcucsagx.html にある『Cisco Unity Connection システムアドミニストレーションガイド Release 7.x』の「電話システム連動の管理」の章の「ポートの管理」の項を参照してください。



(注) Connection サーバのポート数の合計が、Cisco Unity Connection のライセンスによって有効になるポート数を超えることはできません。

PIMG/TIMG 連動を除くすべての電話システム連動

パブリッシャ サーバのポートを設定するには、http://www.cisco.com/en/US/products/ps6509/products_installation_and_configuration_guides_list.html で、該当する Cisco Unity Connection のインテグレーションガイドの「Creating the Integration with the <Phone System>」の項を参照してください。

Connection クラスタが設定されていない単一サーバへの 7.x パブリッシャサーバの変換

サブスライバサーバを Connection クラスタから削除して、Connection クラスタを解除することができます。パブリッシャサーバは Connection クラスタが設定されていない単一サーバになり、サブスライバサーバはネットワークから削除されます（サブスライバサーバを Connection クラスタが設定されていない単一サーバとして使用するには、サーバに Connection を再インストールする必要があります）。



(注) パブリッシャサーバを Connection クラスタから削除することはできません。

この項にある 5 つの手順を順番に実行します。

パブリッシャサーバを Primary ステータスに手動で変更する

- ステップ 1** Cisco Unity Connection Serviceability にログオンします。
- ステップ 2** [Tools] メニューで、[Cluster Management] をクリックします。
- ステップ 3** [Cluster Management] ページの [Server Manager] で、パブリッシャサーバを見つけます。
- ステップ 4** パブリッシャサーバが Primary ステータスになっている場合は、この手順を中断し、次の手順に進みます。

パブリッシャサーバが Secondary ステータスになっている場合は、[ステップ 5](#)に進みます。

パブリッシャが Deactivated ステータスになっている場合は、次の手順に従って、ステータスを Secondary に変更します。

- a. パブリッシャサーバの [Change Server Status] カラムにある [Activate] をクリックします。
- b. サーバステータスを変更することを確認するメッセージが表示されたら、[OK] をクリックします。
- c. [Server Status] カラムで、パブリッシャサーバが Secondary ステータスになったことを確認します。

- ステップ 5** パブリッシャサーバの [Change Server Status] カラムにある [Make Primary] をクリックします。
- ステップ 6** サーバステータスを変更することを確認するメッセージが表示されたら、[OK] をクリックします。

変更が完了すると、[Server Status] カラムに変更後のステータスが表示されます。



(注) サブスライバサーバは Secondary ステータスに自動的に変更されます。

サブスクリバ サーバを Secondary ステータスから Deactivated ステータスに手動で変更する

- ステップ 1** Real-Time Monitoring Tool (RTMT) にログオンします。
- ステップ 2** [Cisco Unity Connection]メニューで、[Port Monitor]をクリックします。右ペインに[Port Monitor] ツールが表示されます。
- ステップ 3** [Node] フィールドで、サブスクリバ サーバをクリックします。
- ステップ 4** 右ペインで、[Start Polling] をクリックします。
- ステップ 5** サーバで現在通話を処理しているボイス メッセージ ポートがあるかどうかを確認します。
- ステップ 6** サーバで現在通話を処理しているボイス メッセージ ポートがない場合は、[ステップ 7](#)に進みます。

サーバで現在通話を処理しているボイス メッセージ ポートがある場合は、Cisco Unity Connection Serviceability の [Cluster Management] ページの [Change Port Status] で、サブスクリバ サーバの [Stop Taking Calls] をクリックします。RTMT にサブスクリバ サーバのすべてのポートがアイドル状態として示されるまで、待機します。

- ステップ 7** Cisco Unity Connection Serviceability の [Cluster Management] ページの [Server Manager] で、サブスクリバ サーバの [Change Server Status] カラムにある [Deactivate] をクリックします。
- ステップ 8** サーバステータスを変更することを確認するメッセージが表示されたら、[OK] をクリックします。

変更が完了すると、[Server Status] カラムにサブスクリバ サーバの変更後のステータスが表示されます。

サブスクリバ サーバを環境から削除する

- ステップ 1** サブスクリバ サーバをシャットダウンします。
- [Server Status] カラムに、サブスクリバ サーバが Not Functioning ステータスになったことが示されます。
- ステップ 2** サブスクリバ サーバからネットワーク ケーブルを取り外します。
- これで、サブスクリバ サーバを環境から削除できる状態になりました。
-

サブスクリバ サーバをクラスターから削除する

- ステップ 1** パブリッシャ サーバで、Cisco Unity Connection の管理にログオンします。
- ステップ 2** Cisco Unity Connection の管理で、[システム設定 (System Settings)] を展開し、[クラスター (Cluster)] をクリックします。

- ステップ 3** [サーバの検索と一覧表示 (Find and List Servers)] ページで、[検索 (Find)] をクリックして、クラスター内のサーバをすべて表示します。
- ステップ 4** サブスクライバサーバの名前の先頭にあるチェックボックスをオンにし、[選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックします。
- ステップ 5** サーバを削除することを確認するメッセージが表示されたら、[OK] をクリックします。

すべての通話が残りの Connection サーバに送信されることを確認する

次に示す電話システム連動のタイプに応じて、該当するマニュアルを参照してください。

Skinny Client Control Protocol (SCCP) を介した Cisco Unified Communications Manager との連動

- 電話システムでサブスクライバサーバに接続しているポートを削除するには、http://www.cisco.com/en/US/products/sw/voicesw/ps556/prod_maintenance_guides_list.html にある『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』を参照してください。
- 電話システムでボイスメールポートのハントグループから残りのサーバ (パブリッシャ) のみに通話が送信されるように設定します。

Skinny Client Control Protocol (SCCP) を介した Cisco Unified Communications Manager Express との連動

- 電話システムでサブスクライバサーバに接続しているポートを削除するには、http://www.cisco.com/en/US/products/sw/voicesw/ps4625/products_installation_and_configuration_guides_list.html にある『Cisco Unified Communications Manager Express システム アドミニストレータガイド』を参照してください。
- 電話システムでボイスメールポートのハントグループから残りのサーバ (パブリッシャ) のみに通話が送信されるように設定します。

SIP トランクを介した Cisco Unified Communications Manager との連動

電話システムでボイスメールポートのハントグループから残りのサーバ (パブリッシャ) のみに通話が送信されるように設定するには、

http://www.cisco.com/en/US/products/sw/voicesw/ps556/prod_maintenance_guides_list.html にある『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』を参照してください。

SIP トランクを介した Cisco Unified Communications Manager Express との連動

電話システムでボイスメールポートのハントグループから残りのサーバ (パブリッシャ) のみに通話が送信されるように設定するには、

http://www.cisco.com/en/US/products/sw/voicesw/ps4625/products_installation_and_configuration_guides_list.html にある『Cisco Unified Communications Manager Express システム アドミニストレータガイド』を参照してください。

PIMG/TIMG ユニットを介した連動

PIMG/TIMG ユニットから残りのサーバ (パブリッシャ) にすべての通話が送信されるように設定するには、

http://www.cisco.com/en/US/products/ps6509/products_installation_and_configuration_guides_list.html で、該当する Cisco Unity Connection のインテグレーションガイドの「Setting Up the PIMG Units」または「Setting Up the TIMG Units」の項を参照してください。

SIP を使用したその他の連動

電話システムでボイスメール ポートのハント グループから残りのサーバ (パブリッシャ) のみに通話が送信されるように設定するには、電話システムのマニュアルを参照してください。



(注) この章には、日本語化されたマニュアル名と英語版 URL が併記された箇所があります。日本語版マニュアルを参照する場合は、次の URL にアクセスしてください。

http://www.cisco.com/japanese/warp/public/3/jp/service/manual_j/index ipt_ucm.shtml

http://www.cisco.com/japanese/warp/public/3/jp/service/manual_j/index ipt_cme.shtml

■ Connection クラスターが設定されていない単一サーバへの 7.x パブリッシャサーバの変換



Cisco Unity Connection 7.x サーバの IP アドレスの変更

この章は、次の項で構成されています。

- [Connection クラスタ内の 7.x サーバの定義がホスト名か IP アドレスかの確認 \(P.6-2\)](#)
- [Connection 7.x サーバの IP アドレスの変更が必要な関連コンポーネント \(P.6-3\)](#)
- [Connection クラスタが設定されていない単一の 7.x サーバの IP アドレスの変更 \(P.6-4\)](#)
- [ホスト名で定義されている 7.x パブリッシャ サーバの IP アドレスの変更 \(P.6-7\)](#)
- [IP アドレスで定義されている 7.x パブリッシャ サーバの IP アドレスの変更 \(P.6-10\)](#)
- [ホスト名で定義されている 7.x サブスクリイバ サーバの IP アドレスの変更 \(P.6-13\)](#)
- [IP アドレスで定義されている 7.x サブスクリイバ サーバの IP アドレスの変更 \(P.6-16\)](#)

Connection クラスタ内の 7.x サーバの定義がホスト名か IP アドレスかの確認

Connection クラスタが設定されている場合、パブリッシャ サーバまたはサブスクリバ サーバの IP アドレスを変更する手順は、サーバがホスト名で定義されているか、IP アドレスで定義されているかによって異なります。

Connection クラスタ内の 7.x サーバがホスト名で定義されているか IP アドレスで定義されているかを確認する

-
- ステップ 1** IP アドレスを変更するサーバで、Cisco Unity Connection の管理にログオンします。
 - ステップ 2** [システム設定 (System Settings)] を展開し、[クラスタ (Cluster)] をクリックします。
 - ステップ 3** [検索 (Find)] をクリックして、クラスタ内のサーバのリストを表示します。
 - ステップ 4** IP アドレスを変更するサーバの [ホスト名 /IP アドレス (Host Name/IP Address)] カラムの値がホスト名になっている場合、サーバはホスト名で定義されています。

[ホスト名 /IP アドレス (Host Name/IP Address)] カラムの値が IP アドレスになっている場合、サーバは IP アドレスで定義されています。

Connection 7.x サーバの IP アドレスの変更が必要な関連コンポーネント

Connection サーバの IP アドレスを変更する場合、次の関連コンポーネントの中に Connection サーバを IP アドレスで参照するものがあるときは、そのコンポーネントでも同様の変更を行う必要があります。

- 次の Web アプリケーションを参照するクライアント コンピュータ上のブックマーク
 - Cisco Personal Communications Assistant
 - Cisco Unity Connection の管理
 - Real-Time Monitoring Tool
- Cisco Fax Server
- Cisco Unified Application Environment
- Cisco Unified Mobile Advantage
- Cisco Unified Presence
- Cisco Unified Personal Communicator
- Cisco Unity Connection ViewMail for Microsoft Outlook
- Connection にアクセスする IMAP 電子メール クライアント
- 次の電話システムと関連コンポーネント
 - Cisco EGW 2200
 - Cisco ISR 音声ゲートウェイ
 - Cisco SIP Proxy Server
 - Cisco Unified Communications Manager
 - Cisco Unified Communications Manager Express
 - PIMG/TIMG ユニット
- RSS リーダー
- SMTP スマート ホスト
- VPIM を介して Connection と連動する次のようなボイス メッセージ システム
 - Cisco Unity
 - Cisco Unity Express

Connection クラスタが設定されていない単一の 7.x サーバの IP アドレスの変更



注意

営業時間中は Connection サーバの IP アドレスを変更しないでください。変更を有効にするには、サーバを再起動する必要があります。

Connection クラスタが設定されていない単一の 7.x サーバの IP アドレスを変更する

- ステップ 1** 関連コンポーネントのリストを確認します。Connection を IP アドレスで参照する関連コンポーネントがある場合は、そのコンポーネントでも Connection サーバの IP アドレスを変更する必要があります。P.6-3 の「[Connection 7.x サーバの IP アドレスの変更が必要な関連コンポーネント](#)」を参照してください。



注意

Connection サーバを IP アドレスで参照する関連コンポーネントがある場合、IP アドレスを適切に変更しないと、そのコンポーネントは Connection サーバにアクセスできなくなります。

- ステップ 2** Real-Time Monitoring Tool(RTMT)で、次の手順に従って、サーバが稼働していることを確認します。
- RTMT を使用して、サーバにログオンします。
 - 左ペインの [Tools] にある [Alert Central] をクリックします。
 - 右ペインの [System] タブで [ServerDown] が黒色表示になっている場合は、[ステップ 3](#) に進みます。

[ServerDown] が赤色表示になっている場合は、[ServerDown] を右クリックし、[Alert Details] をクリックします。この問題を解決してから手順を続行します。

- ステップ 3** Cisco Unified Serviceability にログオンし、次の手順に従って、サーバのステータスを確認します。
- [Tools] メニューで、[Cluster Management] をクリックします。
 - [Server Status] カラムで、現在のサーバの値が [Primary] になっていることを確認します。[Server Status] カラムにそれ以外の値が表示されている場合は、この問題を解決してから手順を続行します。

- ステップ 4** 次の CLI コマンドを実行して、ネットワークの接続性と DNS サーバの設定を確認します。

```
admin: utils diagnose module validate_network
Log file: /var/log/active/platform/log/diag1.log

Starting diagnostic test(s)
=====
test - validate_network      : Passed

Diagnostics Completed
admin:
```


ステップ 5 Disaster Recovery System を使用して、サーバをバックアップします。
http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/7x/drs_administration/guide/7xcucdrsag.html
にある『Disaster Recovery System アドミニストレーション ガイド for Cisco Unity Connection Release 7.x』を参照してください。

ステップ 6 デジタル ネットワーキングが設定されている場合は、サーバをデジタル ネットワークから削除します。
http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/7x/administration/guide/7xcucsagx.html にある『Cisco Unity Connection システムアドミニストレーションガイド Release 7.x』の「デジタル ネットワークの使用法」の章を参照してください。



注意 サーバをデジタル ネットワークに再度追加する作業には、時間がかかる場合があります。この手順を続行する前に、サーバをデジタル ネットワークに再度追加するための作業について十分に理解しておいてください。

ステップ 7 DNS サーバで、サーバの DNS レコードを新しい IP アドレスに変更します。正引き (A) レコードと逆引き (PTR) レコードの両方を更新します。

ステップ 8 次の手順に従って、サーバの IP アドレスと、デフォルト ゲートウェイの IP アドレス (必要に応じて) を変更します。

- a. Cisco Unified オペレーティングシステムの管理にログオンします。
- b. [設定 (Settings)] メニューで、[IP] > [イーサネット (Ethernet)] をクリックします。
- c. [ポート情報 (Port Information)] で、[IP アドレス (IP Address)] フィールドの値と、[サブネットマスク (Subnet Mask)] フィールドの値 (必要に応じて) を変更します。
- d. サーバを別のサブネットに移動する場合、そのサブネットで新しいデフォルトゲートウェイアドレスが必要になる場合は、[ゲートウェイ情報 (Gateway Information)] にある [デフォルトゲートウェイ (Default Gateway)] フィールドの値を変更します。
- e. [保存 (Save)] をクリックします。システムが再起動します。

ステップ 9 RTMT で、次の手順に従って、サーバが稼働していることを確認します。

- a. RTMT を使用して、サーバにログオンします。
- b. 左ペインの [Tools] にある [Alert Central] をクリックします。
- c. 右ペインの [System] タブで [ServerDown] が黒色表示になっている場合は、**ステップ 10** に進みます。
[ServerDown] が赤色表示になっている場合は、[ServerDown] を右クリックし、[Alert Details] をクリックします。この問題を解決してから手順を続行します。

ステップ 10 RTMT のカスタム アラートと保存済みのプロファイルを更新します。

- RTMT のカスタム アラートのうち、パフォーマンス カウンタから生成されるものには、ハードコードされたサーバ IP アドレスが含まれています。カスタム アラートを削除してから再設定する必要があります。
- RTMT の保存済みプロファイルのうち、パフォーマンス カウンタを含むものには、ハードコードされたサーバ IP アドレスが含まれています。カウンタを削除してから再度追加し、プロファイルを保存して新しい IP アドレスに更新する必要があります。

- ステップ 11** 関連コンポーネントを確認し、必要に応じて設定を変更します(必要な変更を行う方法については、該当する製品のマニュアルを参照してください)。P.6-3 の「[Connection 7.x サーバの IP アドレスの変更が必要な関連コンポーネント](#)」を参照してください。
- ステップ 12** IP アドレスを変更する前にサーバがデジタル ネットワークに属していた場合は、サーバをデジタル ネットワークに再度追加します。
http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/7x/administration/guide/7xcucsagx.html にある『Cisco Unity Connection システムアドミニストレーションガイド Release 7.x』の「[デジタル ネットワークの使用方法](#)」の章を参照してください。
- ステップ 13** Disaster Recovery System を使用して、サーバをバックアップします。
http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/7x/drs_administration/guide/7xcucdrsag.html にある『Disaster Recovery System アドミニストレーション ガイド for Cisco Unity Connection』を参照してください。
-

ホスト名で定義されている 7.x パブリッシャ サーバの IP アドレスの変更

**注意**

営業時間中は Connection サーバの IP アドレスを変更しないでください。Connection クラスタが設定されている場合、変更を有効にするには両方のサーバを再起動する必要があります。

ホスト名で定義されている 7.x パブリッシャ サーバの IP アドレスを変更する

- ステップ 1** 関連コンポーネントのリストを確認します。Connection を IP アドレスで参照する関連コンポーネントがある場合は、そのコンポーネントでも Connection サーバの IP アドレスを変更する必要があります。P.6-3 の「[Connection 7.x サーバの IP アドレスの変更が必要な関連コンポーネント](#)」を参照してください。

**注意**

Connection サーバを IP アドレスで参照する関連コンポーネントがある場合、IP アドレスを適切に変更しないと、そのコンポーネントは Connection サーバにアクセスできなくなります。

- ステップ 2** Real-Time Monitoring Tool (RTMT) で、次の手順に従って、パブリッシャ サーバとサブスクライバ サーバが稼働していることを確認します。
- RTMT を使用して、パブリッシャ サーバにログオンします。
 - 左ペインの [Tools] にある [Alert Central] をクリックします。
 - 右ペインの [System] タブで [ServerDown] が黒色表示になっている場合は、ステップ d. に進みます。
[ServerDown] が赤色表示になっている場合は、[ServerDown] を右クリックし、[Alert Details] をクリックします。この問題を解決してから手順を続行します。
 - サブスクライバ サーバで、ステップ a. ~ ステップ c. を繰り返します。

- ステップ 3** パブリッシャ サーバで Cisco Unified Serviceability にログオンし、次の手順に従って、サーバのステータスを確認します。
- [Tools] メニューで、[Cluster Management] をクリックします。
 - [Server Status] カラムで、現在のサーバの値が [Primary] または [Secondary] になっていることを確認します。[Server Status] カラムにそれ以外の値が表示されている場合は、この問題を解決してから手順を続行します。

- ステップ 4** 次の CLI コマンドを実行して、ネットワークの接続性と DNS サーバの設定を確認します。

```
admin: utils diagnose module validate_network
Log file: /var/log/active/platform/log/diag1.log

Starting diagnostic test(s)
=====
test - validate_network      : Passed

Diagnostics Completed
admin:
```

■ ホスト名で定義されている 7.x パブリッシャ サーバの IP アドレスの変更

ステップ 5 Disaster Recovery System を使用して、サーバをバックアップします。
http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/7x/drs_administration/guide/7xcucdrsag.html
 にある『Disaster Recovery System アドミニストレーション ガイド for Cisco Unity Connection Release 7.x』を参照してください。

ステップ 6 デジタル ネットワーキングが設定されている場合は、パブリッシャ サーバをデジタル ネットワークから削除します。
http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/7x/administration/guide/7xcucsagx.html にある『Cisco Unity Connection システムアドミニストレーションガイド Release 7.x』の「デジタル ネットワークの使用方法」の章を参照してください。



注意 サーバをデジタル ネットワークに再度追加する作業には、時間がかかる場合があります。この手順を続行する前に、サーバをデジタル ネットワークに再度追加するための作業について十分に理解しておいてください。

ステップ 7 DNS サーバで、パブリッシャ サーバの DNS レコードを新しい IP アドレスに変更します。正引き (A) レコードと逆引き (PTR) レコードの両方を更新します。

ステップ 8 サブスクリバサーバで、次の手順に従って、パブリッシャ サーバの IP アドレスを変更します。

- a. Cisco Unified オペレーティングシステムの管理にログオンします。
- b. [設定 (Settings)] メニューで、[IP] > [パブリッシャ (Publisher)] をクリックします。
- c. パブリッシャ サーバの IP アドレスを変更します。
- d. [保存 (Save)] をクリックします。

ステップ 9 パブリッシャ サーバで、次の手順に従って、パブリッシャ サーバの IP アドレスと、デフォルトゲートウェイの IP アドレス (必要に応じて) を変更します。

- a. Cisco Unified オペレーティングシステムの管理にログオンします。
- b. [設定 (Settings)] メニューで、[IP] > [イーサネット (Ethernet)] をクリックします。
- c. [ポート情報 (Port Information)] で、[IP アドレス (IP Address)] フィールドの値と、[サブネットマスク (Subnet Mask)] フィールドの値 (必要に応じて) を変更します。
- d. パブリッシャ サーバを別のサブネットに移動する場合、そのサブネットで新しいデフォルトゲートウェイ アドレスが必要になる場合は、[ゲートウェイ情報 (Gateway Information)] にある [デフォルトゲートウェイ (Default Gateway)] フィールドの値を変更します。
- e. [保存 (Save)] をクリックします。システムが再起動します。

ステップ 10 SSH アプリケーションを使用してサブスクリバサーバにログオンし、次の CLI コマンドを実行してサーバを再起動します。その結果、ローカルの名前解決ファイルが更新されます。

```
utils system restart
```

ステップ 11 RTMT で、次の手順に従って、パブリッシャ サーバとサブスクリバサーバが稼働していることを確認します。

- a. RTMT を使用して、パブリッシャ サーバにログオンします。
- b. 左ペインの [Tools] にある [Alert Central] をクリックします。

- c. 右ペインの [System] タブで [ServerDown] が黒色表示になっている場合は、ステップ d. に進みます。
[ServerDown] が赤色表示になっている場合は、[ServerDown] を右クリックし、[Alert Details] をクリックします。この問題を解決してから手順を続行します。
- d. サブスクリバサーバで、ステップ a. ~ ステップ c. を繰り返します。

ステップ 12 RTMT のカスタム アラートと保存済みのプロファイルを更新します。

- RTMT のカスタム アラートのうち、パフォーマンス カウンタから生成されるものには、ハードコードされたサーバ IP アドレスが含まれています。カスタム アラートを削除してから再設定する必要があります。
- RTMT の保存済みプロファイルのうち、パフォーマンス カウンタを含むものには、ハードコードされたサーバ IP アドレスが含まれています。カウンタを削除してから再度追加し、プロファイルを保存して新しい IP アドレスに更新する必要があります。

ステップ 13 関連コンポーネントを確認し、必要に応じて設定を変更します(必要な変更を行う方法については、該当する製品のマニュアルを参照してください)。P.6-3 の「[Connection 7.x サーバの IP アドレスの変更が必要な関連コンポーネント](#)」を参照してください。

ステップ 14 パブリッシャ サーバの IP アドレスを変更する前にこのサーバがデジタル ネットワークに属していた場合は、サーバをデジタル ネットワークに再度追加します。

http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/7x/administration/guide/7xcucsagx.html にある『Cisco Unity Connection システムアドミニストレーションガイド Release 7.x』の「[デジタル ネットワークの使用法](#)」の章を参照してください。

ステップ 15 Disaster Recovery System を使用して、サーバをバックアップします。

http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/7x/drs_administration/guide/7xcucdrsag.html にある『Disaster Recovery System アドミニストレーション ガイド for Cisco Unity Connection Release 7.x』を参照してください。

IP アドレスで定義されている 7.x パブリッシャ サーバの IP アドレスの変更



注意

営業時間中は Connection サーバの IP アドレスを変更しないでください。Connection クラスタが設定されている場合、変更を有効にするには両方のサーバを再起動する必要があります。

IP アドレスで定義されている 7.x パブリッシャ サーバの IP アドレスを変更する

- ステップ 1** 関連コンポーネントのリストを確認します。Connection を IP アドレスで参照する関連コンポーネントがある場合は、そのコンポーネントでも Connection サーバの IP アドレスを変更する必要があります。P.6-3 の「[Connection 7.x サーバの IP アドレスの変更が必要な関連コンポーネント](#)」を参照してください。



注意

Connection サーバを IP アドレスで参照する関連コンポーネントがある場合、IP アドレスを適切に変更しないと、そのコンポーネントは Connection サーバにアクセスできなくなります。

- ステップ 2** Real-Time Monitoring Tool (RTMT) で、次の手順に従って、パブリッシャ サーバとサブスクライバ サーバが稼働していることを確認します。
- RTMT を使用して、パブリッシャ サーバにログオンします。
 - 左ペインの [Tools] にある [Alert Central] をクリックします。
 - 右ペインの [System] タブで [ServerDown] が黒色表示になっている場合は、ステップ d. に進みます。
[ServerDown] が赤色表示になっている場合は、[ServerDown] を右クリックし、[Alert Details] をクリックします。この問題を解決してから手順を続行します。
 - サブスクライバ サーバで、ステップ a. ~ ステップ c. を繰り返します。

- ステップ 3** パブリッシャ サーバで Cisco Unified Serviceability にログオンし、次の手順に従って、サーバのステータスを確認します。
- [Tools] メニューで、[Cluster Management] をクリックします。
 - [Server Status] カラムで、現在のサーバの値が [Primary] または [Secondary] になっていることを確認します。[Server Status] カラムにそれ以外の値が表示されている場合は、この問題を解決してから手順を続行します。

- ステップ 4** 次の CLI コマンドを実行して、ネットワークの接続性と DNS サーバの設定を確認します。

```
admin: utils diagnose module validate_network
Log file: /var/log/active/platform/log/diag1.log

Starting diagnostic test(s)
=====
test - validate_network      : Passed

Diagnostics Completed
admin:
```

ステップ 5 デジタル ネットワーキングが設定されている場合は、パブリッシャ サーバをデジタル ネットワークから削除します。

http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/7x/administration/guide/7xcucsagx.html にある『Cisco Unity Connection システムアドミニストレーションガイド Release 7.x』の「デジタル ネットワークの使用方法」の章を参照してください。

**注意**

サーバをデジタル ネットワークに再度追加する作業には、時間がかかる場合があります。この手順を続行する前に、サーバをデジタル ネットワークに再度追加するための作業について十分に理解しておいてください。

ステップ 6 Disaster Recovery System を使用して、サーバをバックアップします。

http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/7x/drs_administration/guide/7xcucdrsag.html にある『Disaster Recovery System アドミニストレーション ガイド for Cisco Unity Connection Release 7.x』を参照してください。

ステップ 7 パブリッシャ サーバ上の Connection の管理で、次の手順に従って、パブリッシャ サーバの IP アドレスを変更します。

- a. Cisco Unity Connection の管理にログオンします。
- b. [システム設定 (System Settings)] を展開し、[クラスタ (Cluster)] をクリックします。
- c. [検索 (Find)] をクリックして、クラスタ内のサーバのリストを表示します。
- d. パブリッシャ サーバの名前をクリックします。
- e. [ホスト名 / IP アドレス (Host Name / IP Address)] フィールドの値を新しい IP アドレスに変更します。
- f. [保存 (Save)] をクリックします。

ステップ 8 パブリッシャ サーバ上の Cisco Unified オペレーティング システムの管理で、次の手順に従って、パブリッシャ サーバの IP アドレスと、デフォルト ゲートウェイの IP アドレス (必要に応じて) を変更します。

- a. Cisco Unified オペレーティング システムの管理にログオンします。
- b. [設定 (Settings)] メニューで、[IP] > [イーサネット (Ethernet)] をクリックします。
- c. [ポート情報 (Port Information)] で、[IP アドレス (IP Address)] フィールドの値と、[サブネットマスク (Subnet Mask)] フィールドの値 (必要に応じて) を変更します。
- d. パブリッシャ サーバを別のサブネットに移動する場合、そのサブネットで新しいデフォルト ゲートウェイ アドレスが必要になる場合は、[ゲートウェイ情報 (Gateway Information)] にある [デフォルトゲートウェイ (Default Gateway)] フィールドの値を変更します。
- e. [保存 (Save)] をクリックします。システムが再起動します。

ステップ 9 サブスクリバ サーバで、次の手順に従って、パブリッシャ サーバの IP アドレスを変更します。

- a. Cisco Unified オペレーティング システムの管理にログオンします。
- b. [設定 (Settings)] メニューで、[IP] > [パブリッシャ (Publisher)] をクリックします。
- c. パブリッシャ サーバの IP アドレスを変更します。
- d. [保存 (Save)] をクリックします。

ステップ 10 SSH アプリケーションを使用してサブスクリバ サーバにログオンし、次の CLI コマンドを実行してサーバを再起動します。その結果、ローカルの名前解決ファイルが更新されます。

```
utils system restart
```

ステップ 11 RTMT で、次の手順に従って、パブリッシャ サーバとサブスクリバ サーバが稼働していることを確認します。

- a. RTMT を使用して、パブリッシャ サーバにログオンします。
- b. 左ペインの [Tools] にある [Alert Central] をクリックします。
- c. 右ペインの [System] タブで [ServerDown] が黒色表示になっている場合は、ステップ d. に進みます。
[ServerDown] が赤色表示になっている場合は、[ServerDown] を右クリックし、[Alert Details] をクリックします。この問題を解決してから手順を続行します。
- d. サブスクリバ サーバで、ステップ a. ~ ステップ c. を繰り返します。

ステップ 12 RTMT のカスタム アラートと保存済みのプロファイルを更新します。

- RTMT のカスタム アラートのうち、パフォーマンス カウンタから生成されるものには、ハードコードされたサーバ IP アドレスが含まれています。カスタム アラートを削除してから再設定する必要があります。
- RTMT の保存済みプロファイルのうち、パフォーマンス カウンタを含むものには、ハードコードされたサーバ IP アドレスが含まれています。カウンタを削除してから再度追加し、プロファイルを保存して新しい IP アドレスに更新する必要があります。

ステップ 13 関連コンポーネントを確認し、必要に応じて設定を変更します(必要な変更を行う方法については、該当する製品のマニュアルを参照してください)。P.6-3 の「[Connection 7.x サーバの IP アドレスの変更が必要な関連コンポーネント](#)」を参照してください。

ステップ 14 パブリッシャ サーバの IP アドレスを変更する前にこのサーバがデジタル ネットワークに属していた場合は、サーバをデジタル ネットワークに再度追加します。

http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/7x/administration/guide/7xcucsagx.html にある『Cisco Unity Connection システムアドミニストレーションガイド Release 7.x』の「[デジタル ネットワークの使用方法](#)」の章を参照してください。

ステップ 15 Disaster Recovery System を使用して、サーバをバックアップします。

http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/7x/drs_administration/guide/7xcucdrsag.html にある『Disaster Recovery System アドミニストレーション ガイド for Cisco Unity Connection Release 7.x』を参照してください。

ホスト名で定義されている 7.x サブスクライバサーバの IP アドレスの変更

**注意**

営業時間中は Connection サーバの IP アドレスを変更しないでください。Connection クラスタが設定されている場合、変更を有効にするには両方のサーバを再起動する必要があります。

ホスト名で定義されている 7.x サブスクライバサーバの IP アドレスを変更する

- ステップ 1** 関連コンポーネントのリストを確認します。Connection を IP アドレスで参照する関連コンポーネントがある場合は、そのコンポーネントでも Connection サーバの IP アドレスを変更する必要があります。P.6-3 の「[Connection 7.x サーバの IP アドレスの変更が必要な関連コンポーネント](#)」を参照してください。

**注意**

Connection サーバを IP アドレスで参照する関連コンポーネントがある場合、IP アドレスを適切に変更しないと、そのコンポーネントは Connection サーバにアクセスできなくなります。

- ステップ 2** Real-Time Monitoring Tool (RTMT) で、次の手順に従って、パブリッシャサーバとサブスクライバサーバが稼働していることを確認します。
- RTMT を使用して、パブリッシャサーバにログオンします。
 - 左ペインの [Tools] にある [Alert Central] をクリックします。
 - 右ペインの [System] タブで [ServerDown] が黒色表示になっている場合は、ステップ d. に進みます。
[ServerDown] が赤色表示になっている場合は、[ServerDown] を右クリックし、[Alert Details] をクリックします。この問題を解決してから手順を続行します。
 - サブスクライバサーバで、ステップ a. ~ ステップ c. を繰り返します。
- ステップ 3** サブスクライバサーバで Cisco Unified Serviceability にログオンし、次の手順に従って、サーバのステータスを確認します。
- [Tools] メニューで、[Cluster Management] をクリックします。
 - [Server Status] カラムで、現在のサーバの値が [Primary] または [Secondary] になっていることを確認します。[Server Status] カラムにそれ以外の値が表示されている場合は、この問題を解決してから手順を続行します。
- ステップ 4** 次の CLI コマンドを実行して、ネットワークの接続性と DNS サーバの設定を確認します。

```
admin: utils diagnose module validate_network
Log file: /var/log/active/platform/log/diag1.log

Starting diagnostic test(s)
=====
test - validate_network      : Passed

Diagnostics Completed
admin:
```

■ ホスト名で定義されている 7.x サブスクリバサーバの IP アドレスの変更

ステップ 5 Disaster Recovery System を使用して、サーバをバックアップします。
http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/7x/drs_administration/guide/7xcucdrsag.html
 にある『Disaster Recovery System アドミニストレーション ガイド for Cisco Unity Connection Release 7.x』を参照してください。

ステップ 6 DNS サーバで、サブスクリバサーバの DNS レコードを新しい IP アドレスに変更します。正引き (A) レコードと逆引き (PTR) レコードの両方を更新します。

ステップ 7 サブスクリバサーバとパブリッシャサーバで次の 2 つの CLI コマンドを実行して、DNS の変更がパブリッシャサーバに反映されることを確認します。

```
utils network host
show tech network hosts
```

ステップ 8 サブスクリバサーバで、次の手順に従って、サブスクリバサーバの IP アドレスと、デフォルトゲートウェイの IP アドレス (必要に応じて) を変更します。

- a. Cisco Unified オペレーティングシステムの管理にログオンします。
- b. [設定 (Settings)] メニューで、[IP] > [イーサネット (Ethernet)] をクリックします。
- c. [ポート情報 (Port Information)] で、[IP アドレス (IP Address)] フィールドの値と、[サブネットマスク (Subnet Mask)] フィールドの値 (必要に応じて) を変更します。
- d. パブリッシャサーバを別のサブネットに移動する場合、そのサブネットで新しいデフォルトゲートウェイアドレスが必要になる場合は、[ゲートウェイ情報 (Gateway Information)] にある [デフォルトゲートウェイ (Default Gateway)] フィールドの値を変更します。
- e. [保存 (Save)] をクリックします。システムが再起動します。

ステップ 9 SSH アプリケーションを使用してパブリッシャサーバにログオンし、次の CLI コマンドを実行してサーバを再起動します。その結果、ローカルの名前解決ファイルが更新されます。

```
utils system restart
```

ステップ 10 RTMT で、次の手順に従って、パブリッシャサーバとサブスクリバサーバが稼働していることを確認します。

- a. RTMT を使用して、パブリッシャサーバにログオンします。
- b. 左ペインの [Tools] にある [Alert Central] をクリックします。
- c. 右ペインの [System] タブで [ServerDown] が黒色表示になっている場合は、ステップ d. に進みます。
 [ServerDown] が赤色表示になっている場合は、[ServerDown] を右クリックし、[Alert Details] をクリックします。この問題を解決してから手順を続行します。
- d. サブスクリバサーバで、ステップ a. ~ ステップ c. を繰り返します。

ステップ 11 RTMT のカスタムアラートと保存済みのプロファイルを更新します。

- RTMT のカスタムアラートのうち、パフォーマンスカウンタから生成されるものには、ハードコードされたサーバ IP アドレスが含まれています。カスタムアラートを削除してから再設定する必要があります。

- RTMT の保存済みプロファイルのうち、パフォーマンス カウンタを含むものには、ハードコードされたサーバ IP アドレスが含まれています。カウンタを削除してから再度追加し、プロファイルを保存して新しい IP アドレスに更新する必要があります。

ステップ 12 関連コンポーネントを確認し、必要に応じて設定を変更します(必要な変更を行う方法については、該当する製品のマニュアルを参照してください)。P.6-3 の「[Connection 7.x サーバの IP アドレスの変更が必要な関連コンポーネント](#)」を参照してください。

ステップ 13 Disaster Recovery System を使用して、パブリッシャサーバをバックアップします。
http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/7x/drs_administration/guide/7xcucdrsag.html
にある『*Disaster Recovery System アドミニストレーション ガイド for Cisco Unity Connection Release 7.x*』を参照してください。

IP アドレスで定義されている 7.x サブスクリバサーバの IP アドレスの変更



注意

営業時間中は Connection サーバの IP アドレスを変更しないでください。Connection クラスタが設定されている場合、変更を有効にするには両方のサーバを再起動する必要があります。

IP アドレスで定義されている 7.x サブスクリバサーバの IP アドレスを変更する

- ステップ 1** 関連コンポーネントのリストを確認します。Connection を IP アドレスで参照する関連コンポーネントがある場合は、そのコンポーネントでも Connection サーバの IP アドレスを変更する必要があります。P.6-3 の「[Connection 7.x サーバの IP アドレスの変更が必要な関連コンポーネント](#)」を参照してください。



注意

Connection サーバを IP アドレスで参照する関連コンポーネントがある場合、IP アドレスを適切に変更しないと、そのコンポーネントは Connection サーバにアクセスできなくなります。

- ステップ 2** Real-Time Monitoring Tool (RTMT) で、次の手順に従って、パブリッシャサーバとサブスクリバサーバが稼働していることを確認します。
- RTMT を使用して、パブリッシャサーバにログオンします。
 - 左ペインの [Tools] にある [Alert Central] をクリックします。
 - 右ペインの [System] タブで [ServerDown] が黒色表示になっている場合は、ステップ d. に進みます。
[ServerDown] が赤色表示になっている場合は、[ServerDown] を右クリックし、[Alert Details] をクリックします。この問題を解決してから手順を続行します。
 - サブスクリバサーバで、ステップ a. ~ ステップ c. を繰り返します。

- ステップ 3** サブスクリバサーバで Cisco Unified Serviceability にログオンし、次の手順に従って、サーバのステータスを確認します。
- [Tools] メニューで、[Cluster Management] をクリックします。
 - [Server Status] カラムで、現在のサーバの値が [Primary] または [Secondary] になっていることを確認します。[Server Status] カラムにそれ以外の値が表示されている場合は、この問題を解決してから手順を続行します。

- ステップ 4** 次の CLI コマンドを実行して、ネットワークの接続性と DNS サーバの設定を確認します。

```
admin: utils diagnose module validate_network
Log file: /var/log/active/platform/log/diag1.log

Starting diagnostic test(s)
=====
test - validate_network      : Passed

Diagnostics Completed
admin:
```

ステップ 5 Disaster Recovery System を使用して、サーバをバックアップします。
http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/7x/drs_administration/guide/7xcucdrsag.html
にある『Disaster Recovery System アドミニストレーション ガイド for Cisco Unity Connection Release 7.x』を参照してください。

ステップ 6 パブリッシャサーバで、次の手順に従って、サブスクリバサーバの IP アドレスを変更します。

- a. Cisco Unity Connection の管理にログオンします。
- b. [システム設定 (System Settings)] を展開し、[クラスタ (Cluster)] をクリックします。
- c. [検索 (Find)] をクリックして、クラスタ内のサーバのリストを表示します。
- d. サブスクリバサーバの名前をクリックします。
- e. [ホスト名 /IP アドレス (Host Name/IP Address)] フィールドの値を新しい IP アドレスに変更します。
- f. [保存 (Save)] をクリックします。

ステップ 7 サブスクリバサーバで、次の手順に従って、サブスクリバサーバの IP アドレスと、デフォルトゲートウェイの IP アドレス (必要に応じて) を変更します。

- a. Cisco Unified オペレーティングシステムの管理にログオンします。
- b. [設定 (Settings)] メニューで、[IP] > [イーサネット (Ethernet)] をクリックします。
- c. [ポート情報 (Port Information)] で、[IP アドレス (IP Address)] フィールドの値と、[サブネットマスク (Subnet Mask)] フィールドの値 (必要に応じて) を変更します。
- d. パブリッシャサーバを別のサブネットに移動する場合、そのサブネットで新しいデフォルトゲートウェイアドレスが必要になる場合は、[ゲートウェイ情報 (Gateway Information)] にある [デフォルトゲートウェイ (Default Gateway)] フィールドの値を変更します。
- e. [保存 (Save)] をクリックします。システムが再起動します。

ステップ 8 SSH アプリケーションを使用してパブリッシャサーバにログオンし、次の CLI コマンドを実行してサーバを再起動します。その結果、ローカルの名前解決ファイルが更新されます。

```
utils system restart
```

ステップ 9 RTMT で、次の手順に従って、パブリッシャサーバとサブスクリバサーバが稼働していることを確認します。

- a. RTMT を使用して、パブリッシャサーバにログオンします。
- b. 左ペインの [Tools] にある [Alert Central] をクリックします。
- c. 右ペインの [System] タブで [ServerDown] が黒色表示になっている場合は、ステップ d. に進みます。
[ServerDown] が赤色表示になっている場合は、[ServerDown] を右クリックし、[Alert Details] をクリックします。この問題を解決してから手順を続行します。
- d. サブスクリバサーバで、ステップ a. ~ ステップ c. を繰り返します。

ステップ 10 RTMT のカスタムアラートと保存済みのプロファイルを更新します。

- RTMT のカスタムアラートのうち、パフォーマンスカウンタから生成されるものには、ハードコードされたサーバ IP アドレスが含まれています。カスタムアラートを削除してから再設定する必要があります。

■ IP アドレスで定義されている 7.x サブスクリバサーバの IP アドレスの変更

- RTMT の保存済みプロファイルのうち、パフォーマンス カウンタを含むものには、ハードコードされたサーバ IP アドレスが含まれています。カウンタを削除してから再度追加し、プロファイルを保存して新しい IP アドレスに更新する必要があります。

ステップ 11 関連コンポーネントを確認し、必要に応じて設定を変更します(必要な変更を行う方法については、該当する製品のマニュアルを参照してください)。P.6-3 の「[Connection 7.x サーバの IP アドレスの変更が必要な関連コンポーネント](#)」を参照してください。

ステップ 12 Disaster Recovery System を使用して、サーバをバックアップします。
http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/7x/drs_administration/guide/7xcucdrsag.html
にある『*Disaster Recovery System アドミニストレーション ガイド for Cisco Unity Connection Release 7.x*』を参照してください。



Cisco Unity Connection 7.x サーバの名前の変更

この章は、次の項で構成されています。

- [Connection クラスタが設定されていない単一の 7.x サーバの名前の変更 \(P.7-2\)](#)
- [Connection クラスタ内の 7.x パブリッシャ サーバの名前の変更 \(P.7-4\)](#)
- [Connection クラスタ内の 7.x サブスクリバ サーバの名前の変更 \(P.7-6\)](#)

Connection クラスタが設定されていない単一の 7.x サーバの名前の変更

クラスタが設定されていない単一の Connection サーバのホスト名を変更するには、次の手順を実行します。

Connection クラスタが設定されていない単一の 7.x サーバの名前を変更する

ステップ 1 デジタル ネットワーキングが設定されている場合は、サーバをデジタル ネットワークから削除します。

http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/7x/administration/guide/7xcucsagx.html にある『Cisco Unity Connection システムアドミニストレーションガイド Release 7.x』の「デジタル ネットワークの使用方法」の章を参照してください。



注意 サーバをデジタル ネットワークに再度追加する作業には、時間がかかる場合があります。この手順を開始する前に、サーバをデジタル ネットワークに再度追加するための作業について十分に理解しておいてください。

ステップ 2 DNS サーバで、Connection サーバの DNS レコードを新しいホスト名に変更します。

ステップ 3 DNS の変更がサーバに反映されることを確認します。SSH アプリケーションを使用してサーバにログオンし、次の CLI コマンドを実行します。

```
utils network host <hostname>
```

新しいホスト名が正しい IP アドレスに解決された場合にのみ、手順を続行してください。

ステップ 4 Connection サーバ上の Cisco Unity Connection の管理で、次の手順に従って、SMTP ドメインを変更します。

- a. [システム設定 (System Settings)] > [SMTP の設定 (SMTP Configuration)] の順に展開し、[サーバ (Server)] をクリックします。
- b. [SMTP ドメインの変更 (Change SMTP Domain)] をクリックし、[SMTP ドメイン (SMTP Domain)] フィールドの値を変更します。
- c. [保存 (Save)] をクリックします。

ステップ 5 Connection の管理で、次の手順に従って、サーバのホスト名を変更します。

- a. [システム設定 (System Settings)] を展開し、[クラスタ (Cluster)] をクリックします。
- b. [検索 (Find)] をクリックして、サーバのリストを表示します。
- c. 名前を変更するサーバのホスト名をクリックします。
- d. [サーバの設定 (Server Configuration)] ページで、[ホスト名 /IP アドレス (Host Name/IP Address)] フィールドの値を新しい名前に変更します。
- e. [保存 (Save)] をクリックします。

ステップ 6 Cisco Unified オペレーティング システムの管理で、次の手順に従って、サーバのホスト名を変更します。

- a. [設定 (Settings)] メニューで、[IP] > [イーサネット (Ethernet)] をクリックします。
- b. Connection サーバのホスト名を変更します。
- c. [保存 (Save)] をクリックします。サーバが自動的に再起動します。

ステップ 7 SSH アプリケーションを使用してサーバにログオンし、次の CLI コマンドを実行してサーバを再起動します。

```
utils system restart
```

ステップ 8 サーバの名前を変更する前にサーバがデジタル ネットワークに属していた場合は、サーバをデジタル ネットワークに再度追加します。

http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/7x/administration/guide/7xcucsagx.html にある『Cisco Unity Connection システムアドミニストレーションガイド Release 7.x』の「デジタル ネットワークの使用方法」の章を参照してください。

Connection クラスタ内の 7.x パブリッシャ サーバの名前の変更

Connection クラスタ内のパブリッシャ サーバのホスト名を変更するには、次の手順を実行します。

Connection クラスタ内の 7.x パブリッシャ サーバの名前を変更する

- ステップ 1** デジタル ネットワーキングが設定されている場合は、サーバをデジタル ネットワークから削除します。
- http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/7x/administration/guide/7xcucsagx.html にある『Cisco Unity Connection システムアドミニストレーションガイド Release 7.x』の「デジタル ネットワークの使用方法」の章を参照してください。



注意 サーバをデジタル ネットワークに再度追加する作業には、時間がかかる場合があります。この手順を開始する前に、サーバをデジタル ネットワークに再度追加するための作業について十分に理解しておいてください。

- ステップ 2** DNS サーバで、パブリッシャ サーバの DNS レコードを新しいホスト名に変更します。
- ステップ 3** DNS の変更がパブリッシャ サーバに反映されることを確認します。SSH アプリケーションを使用してパブリッシャ サーバにログオンし、次の CLI コマンドを実行します。

```
utils network host <hostname>
```

新しいホスト名が正しい IP アドレスに解決された場合にのみ、手順を続行してください。

- ステップ 4** サブスクライバ サーバで、**ステップ 3** を繰り返します。
- ステップ 5** パブリッシャ サーバ上の Cisco Unity Connection の管理で、次の手順に従って、SMTP ドメインを変更します。
- [**システム設定 (System Settings)**] > [**SMTP の設定 (SMTP Configuration)**] の順に展開し、[**サーバ (Server)**] をクリックします。
 - [**SMTP ドメインの変更 (Change SMTP Domain)**] をクリックし、[**SMTP ドメイン (SMTP Domain)**] フィールドの値を変更します。
 - [**保存 (Save)**] をクリックします。

- ステップ 6** パブリッシャ サーバ上の Connection の管理で、次の手順に従って、パブリッシャ サーバのホスト名を変更します。
- [**システム設定 (System Settings)**] を展開し、[**クラスタ (Cluster)**] をクリックします。
 - [**検索 (Find)**] をクリックして、サーバのリストを表示します。
 - 名前を変更するサーバのホスト名をクリックします。
 - [**サーバの設定 (Server Configuration)**] ページで、[**ホスト名 /IP アドレス (Host Name/IP Address)**] フィールドの値を新しい名前に変更します。
 - [**保存 (Save)**] をクリックします。

ステップ7 サブスクリイバ サーバで、次の手順に従って、サブスクリイバ サーバにおけるパブリッシャ サーバの識別名を変更します。

- a. Cisco Unified オペレーティング システムの管理で、[IP] > [パブリッシャ (Publisher)] をクリックします。
- b. パブリッシャ サーバのホスト名を変更します。
- c. [保存 (Save)] をクリックします。
- d. SSH アプリケーションを使用してサブスクリイバ サーバにログオンし、次の CLI コマンドを実行してサーバを再起動します。

```
utils system restart
```

ステップ8 パブリッシャ サーバ上の Cisco Unified オペレーティング システムの管理で、次の手順に従って、パブリッシャ サーバの名前を変更します。

- a. [設定 (Settings)] メニューで、[IP] > [イーサネット (Ethernet)] をクリックします。
- b. パブリッシャ サーバのホスト名を変更します。
- c. [保存 (Save)] をクリックします。パブリッシャ サーバが自動的に再起動します。
- d. パブリッシャ サーバが完全に再起動するまで待機します。パブリッシャ サーバで Connection の管理にログオンできる状態になったら、[ステップ9](#)に進みます。

ステップ9 SSH アプリケーションを使用してサブスクリイバ サーバにログオンし、次の CLI コマンドを実行してサーバを再起動します。

```
utils system restart
```

ステップ10 サブスクリイバ サーバが完全に再起動するまで待機します。サブスクリイバ サーバで Connection の管理にログオンできる状態になったら、[ステップ11](#)に進みます。

ステップ11 パブリッシャ サーバで、次の CLI コマンドを実行して複製をリセットします。

```
utils dbreplication reset all
```

ステップ12 サーバの名前を変更する前にサーバがデジタル ネットワークに属していた場合は、サーバをデジタル ネットワークに再度追加します。

http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/7x/administration/guide/7xcucsagx.html にある『Cisco Unity Connection システムアドミニストレーションガイド Release 7.x』の「[デジタル ネットワークの使用方法](#)」の章を参照してください。

Connection クラスタ内の 7.x サブスクリバサーバの名前の変更

Connection クラスタ内のサブスクリバサーバのホスト名を変更するには、次の手順を実行します。

Connection クラスタ内の 7.x サブスクリバサーバの名前を変更する

ステップ 1 DNS サーバで、サブスクリバサーバの DNS レコードを新しいホスト名に変更します。

ステップ 2 DNS の変更がパブリッシャサーバに反映されることを確認します。SSH アプリケーションを使用してパブリッシャサーバにログオンし、次の CLI コマンドを実行します。

```
utils network host <hostname>
```

新しいホスト名が正しい IP アドレスに解決された場合にのみ、手順を続行してください。

ステップ 3 サブスクリバサーバで、[ステップ 2](#) を繰り返します。

ステップ 4 パブリッシャサーバで、次の手順に従って、パブリッシャサーバにおけるサブスクリバサーバの識別名を変更します。

- Cisco Unity Connection の管理で、[**システム設定 (System Settings)**] を展開し、[**クラスタ (Cluster)**] をクリックします。
- [**検索 (Find)**] をクリックして、サーバのリストを表示します。
- サブスクリバサーバのホスト名をクリックします。
- [**サーバの設定 (Server Configuration)**] ページで、[**ホスト名 / IP アドレス (Host Name/IP Address)**] フィールドの値を新しい名前に変更します。

ステップ 5 サブスクリバサーバ上の Cisco Unified オペレーティングシステムの管理で、次の手順に従って、サブスクリバサーバの名前を変更します。

- [**設定 (Settings)**] メニューで、[**IP**] > [**イーサネット (Ethernet)**] をクリックします。
- パブリッシャサーバのホスト名を変更します。
- [**保存 (Save)**] をクリックします。サブスクリバサーバが自動的に再起動します。

ステップ 6 SSH アプリケーションを使用してパブリッシャサーバにログオンし、次の CLI コマンドを実行してサーバを再起動します。

```
utils system restart
```

ステップ 7 パブリッシャサーバで、次の CLI コマンドを実行して複製をリセットします。

```
utils dbreplication reset all
```

ステップ 8 SSH アプリケーションを使用してパブリッシャサーバにログオンし、次の CLI コマンドを実行してサーバをもう一度再起動します。

```
utils system restart
```



INDEX

C

COBRAS

- 1.x から 7.x にデータを移行するための 2-3
- Cisco Unity 4.x から Connection 7.x にデータを移行するための 3-3

E

Exchange 情報にアクセスするユーザの外部サービスアカウントにおける電子メール アドレスの調整
1-7

I

IP アドレス

- IP アドレスで定義されているサブスクリバの変更 6-16
- IP アドレスで定義されているパブリッシャの変更 6-10
- 関連コンポーネントでの変更 6-3
- クラスタが設定されていない単一サーバの変更 6-4
- サーバが ~ で定義されているかの確認 6-2
- ホスト名で定義されているサブスクリバの変更 6-13
- ホスト名で定義されているパブリッシャの変更 6-7

M

Migration Export ツール

- 1.x から 7.x にデータを移行するための 2-2
- Cisco Unity 4.x から Connection 7.x にデータを移行するための 3-2

Migration Import ツール

- 1.x から 7.x へのユーザデータとメッセージのインポート 2-12
- Cisco Unity 4.x から connection 7.x へのユーザデータとメッセージのインポート 3-12

い

移行

- 1.x から 7.x に、タスク リスト 2-4
- Cisco Unity 4.x から Connection 7.x に、タスク リスト 3-4

インストール

- 1.x から 7.x に移行するためのメモリ増設 2-7
- 2.x 以降を 7.x にアップグレードするためのメモリ増設 1-3
- Cisco Unity 4.x から Connection 7.x に移行するためのメモリ増設 3-7

か

外部サービス アカウント、Exchange 情報にアクセスするユーザの ~ における電子メール アドレスの調整
1-7

き

規則、表記 vi

く

クラスタ

- サブスクリバ サーバの交換 4-6
- パブリッシャ サーバおよびサブスクリバ サーバの交換 4-9
- パブリッシャ サーバの交換 4-3
- クラスタが設定されていない単一サーバへのパブリッシャの変換 5-4
- クラスタを作成するためのサーバの追加 5-2

こ

交換

- 1.x から 7.x に移行するためのハードディスク 2-7

- 2.x 以降を 7.x にアップグレードするためのハードディスク 1-3
 - Cisco Unity 4.x から Connection 7.x に移行するためのハードディスク 3-7
 - Connection クラスタが設定されていない単一サーバ 4-2
 - サブスクリバサーバ 4-6
 - パブリッシャサーバ 4-3
 - パブリッシャサーバおよびサブスクリバサーバ 4-9
- さ
- サーバ
- Connection クラスタが設定されていない単一～の交換 4-2
 - IP アドレスで定義されているサブスクリバの IP アドレスの変更 6-16
 - IP アドレスで定義されているパブリッシャの IP アドレスの変更 6-10
 - IP アドレスの変更が必要な関連コンポーネント 6-3
 - クラスタが設定されていない単一サーバへのパブリッシャの変換 5-4
 - クラスタが設定されていない単一の IP アドレスの変更 6-4
 - クラスタが設定されていない単一の名前の変更 7-2
 - クラスタを作成するための追加 5-2
 - サブスクリバの交換 4-6
 - サブスクリバの名前の変更 7-6
 - パブリッシャサーバまたはサブスクリバサーバがホスト名で定義されているか IP アドレスで定義されているかの確認 6-2
 - パブリッシャおよびサブスクリバの交換 4-9
 - パブリッシャの交換 4-3
 - パブリッシャの名前の変更 7-4
 - ホスト名で定義されているサブスクリバの IP アドレスの変更 6-13
 - ホスト名で定義されているパブリッシャの IP アドレスの変更 6-7
- サーバの IP アドレスの変更が必要な関連コンポーネント 6-3
- サブスクリバサーバ
- 交換 4-6
 - 名前の変更 7-6
 - パブリッシャサーバおよび～の交換 4-9
- し
- 出荷されている 7.x バージョンに Connection ソフトウェアをアップグレード、～のタスクリスト 1-2
- た
- タスクリスト
- 1.x から 7.x に移行するための 2-4
 - Cisco Unity 4.x から Connection 7.x に移行するための 3-4
 - 出荷されている 7.x バージョンに Connection ソフトウェアをアップグレードするための 1-2
- て
- データを移行するためのツール
- 1.x から 7.x に、～について 2-2
 - Cisco Unity 4.x から Connection 7.x に、～について 3-2
- 電子メール アドレス、Exchange 情報にアクセスするユーザの外部サービス アカウントにおける調整 1-7
- な
- 名前の変更
- クラスタが設定されていない単一サーバ 7-2
 - サブスクリバサーバ 7-6
 - パブリッシャサーバ 7-4
- は
- ハードディスク
- 1.x から 7.x に移行するための交換 2-7
 - 2.x 以降を 7.x にアップグレードするための交換 1-3
 - Cisco Unity 4.x から Connection 7.x に移行するための交換 3-7
- パブリッシャサーバ
- クラスタが設定されていない単一サーバへの交換 5-4
 - 交換 4-3
 - サブスクリバサーバおよび～の交換 4-9
 - 名前の変更 7-4

- ひ
- 表記法 vi
- ふ
- 複数のテンプレートを使用してユーザ アカウントを作成するための準備
- 1.x から 7.x に移行するための 2-11
 - Cisco Unity 4.x から Connection 7.x に移行するための 3-11
- へ
- 変更
- IP アドレスで定義されているサブスクリバの IP アドレス 6-16
 - IP アドレスで定義されているパブリッシャの IP アドレス 6-10
 - クラスタが設定されていない単一サーバの IP アドレス 6-4
 - ホスト名で定義されているサブスクリバの IP アドレス 6-13
 - ホスト名で定義されているパブリッシャの IP アドレス 6-7
- ほ
- ホスト名、サーバが ~ で定義されているかの確認 6-2
- め
- メッセージ、Migration Import ツールを使用したインポート
- 1.x から 7.x に 2-12
 - Cisco Unity 4.x から Connection 7.x に 3-12
- メモリ増設
- 1.x から 7.x に移行するための設置 2-7
 - 2.x 以降を 7.x にアップグレードするための設置 1-3
 - Cisco Unity 4.x から Connection 7.x に移行するための設置 3-7
- ゆ
- ユーザ アカウント、複数のテンプレートを使用して作成するための準備
- 1.x から 7.x に移行するための 2-11
 - Cisco Unity 4.x から Connection 7.x に移行するための 3-11
- ユーザ データ、Migration Import ツールを使用したインポート
- 1.x から 7.x に 2-12
 - Cisco Unity 4.x から Connection 7.x に 3-12
- ユーザ データとメッセージのインポート
- 1.x to 2.x Migration Import ツールを使用した 2-12
 - Cisco Unity 4.x to Connection 2.x Migration Import ツールを使用した 3-12